

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年5月29日
【事業年度】	第30期（自 2023年3月1日 至 2024年2月29日）
【会社名】	株式会社 J T C
【英訳名】	J T C I n c .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 具 哲謨
【本店の所在の場所】	東京都新宿区左門町2番地6 (注) 2023年5月26日開催の第29期定時株主総会の決議により、本店の所在の場所を上記 のとおり変更いたしました。
【電話番号】	03 - 6457 - 7793 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 執行役員管理本部長 山本 文矢
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区左門町2番地6
【電話番号】	03 - 6457 - 7793 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 執行役員管理本部長 山本 文矢
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第26期	第27期	第28期	第29期	第30期
決算年月	2020年2月	2021年2月	2022年2月	2023年2月	2024年2月
売上高 (百万円)	52,485	1,826	1,450	3,708	16,283
経常利益又は経常損失 () (百万円)	1,176	5,650	5,205	1,571	1,197
親会社株主に帰属する当期 純利益又は親会社株主に帰 属する当期純損失() (百万円)	1,673	7,511	5,016	1,583	3,145
包括利益 (百万円)	2,195	7,867	5,084	1,736	2,945
純資産額 (百万円)	20,701	12,736	7,649	11,177	13,978
総資産額 (百万円)	30,611	19,734	14,085	15,973	19,358
1株当たり純資産額 (円)	577.73	357.35	213.50	218.98	277.97
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失() (円)	47.82	214.59	143.30	41.24	62.55
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	61.15
自己資本比率 (%)	66.07	63.39	53.06	68.94	72.21
自己資本利益率 (%)	7.89	45.90	50.20	17.13	25.17
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	8.36
営業活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	3,360	3,041	2,124	2,012	689
投資活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	2,264	1,319	11	197	1,226
財務活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	3,151	1,046	319	3,394	25
現金及び現金同等物の期末 残高 (百万円)	6,963	4,202	2,387	3,916	4,490
従業員数 (人)	726	188	153	164	270
(外、平均臨時雇用者数)	(293)	(55)	(2)	(10)	(30)

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第26期から第29期まで1株当たり当期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 株価は韓国取引所(KOSDAQ市場)におけるものであります。
- 3 株価の韓国ウォンから日本円への換算については、連結決算日におけるソウル外国為替仲介株式会社の基準為替レートにより算出しております。
- 4 株価収益率については、第26期から第29期まで親会社株主に帰属する当期純損失のため記載しておりません。
- 5 第27期における従業員数の減少は、事業構造改善に伴う早期退職優遇制度の特別募集を実施したことによるものであります。第30期における従業員数の増加は、新店舗開設等によります。
- 6 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第29期の期首から適用しており、第29期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第26期	第27期	第28期	第29期	第30期
決算年月	2020年 2 月	2021年 2 月	2022年 2 月	2023年 2 月	2024年 2 月
売上高 (百万円)	45,525	1,512	1,324	3,197	15,976
経常利益又は経常損失 () (百万円)	2,726	5,779	5,151	1,727	1,291
当期純利益又は当期純損失 () (百万円)	2,238	7,582	5,119	1,762	3,222
資本金 (百万円)	4,854	4,854	4,854	7,481	100
発行済株式総数 (株)	35,005,517	35,005,517	35,005,517	50,288,623	50,288,623
純資産額 (百万円)	20,360	12,664	7,541	11,033	14,240
総資産額 (百万円)	27,540	18,124	12,986	14,874	18,960
1株当たり純資産額 (円)	580.89	361.28	215.03	219.10	283.18
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当 額) (円)	3.00 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失 () (円)	63.94	216.61	146.25	45.89	64.07
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	62.63
自己資本比率 (%)	73.83	69.78	57.96	74.07	75.11
自己資本利益率 (%)	10.38	45.98	50.76	19.01	25.51
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	8.17
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	619 (282)	146 (52)	125 (0)	137 (2)	265 (28)
株主総利回り (%)	62.9	56.6	72.1	54.2	60.5
最高株価 (円) (ウォン)	993.1 (10,100)	630.8 (6,580)	649.3 (6,620)	487.1 (4,830)	617.6 (5,470)
最低株価 (円) (ウォン)	479.6 (5,500)	285.7 (2,980)	267.4 (2,790)	271.2 (2,555)	368.6 (3,265)

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第26期から第29期まで1株当たり当期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 当社は2022年12月9日を払込期日とする第三者割当による募集株式の発行により、発行済株式の総数は15,087,507株増加しております。また、新株予約権の権利行使により、発行済株式の総数は195,599株増加しております。
- 3 株価収益率については、第26期から第29期まで当期純損失のため記載しておりません。
- 4 配当性向については、第26期は当期純損失、第27期から第30期までは無配のため記載しておりません。
- 5 第27期における従業員数の減少については、事業構造改善に伴う早期退職優遇制度の特別募集を実施したことによるものであります。第30期における従業員数の増加は、新店舗開設等によりです。
- 6 株価は韓国取引所 (KOSDAQ市場) におけるものであります。
- 7 株価の韓国ウォンから日本円への換算については、貸借対照表日におけるソウル外国為替仲介株式会社の基準為替レートにより算出しております。
- 8 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第29期の期首から適用しており、第29期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

年月	概要
1993年 5月	大分県別府市石垣東において家電製品の販売を目的として東京電気商会別府店を創業
1993年 7月	輸出品販売場許可を取得し、免税店事業を開始
1994年 3月	資本金300万円で有限会社を設立、商号を有限会社東京電気商会別府店に変更
1994年 4月	資本金800万円に増資
1998年 3月	商号を有限会社トキに変更（これに伴い、店舗の名称も変更）
2003年 7月	長崎県対馬市にトキ対馬店を出店（2005年 8月閉店）
2003年 9月	商号を有限会社日本観光公社に変更（これに伴い、各店舗の名称も変更）
2003年12月	本店を大分県別府市石垣西に移転（現K00 SKIN別府店）
2004年10月	東京都新宿区に日本観光公社東京店を出店
2005年 3月	インターネットショッピングサイト「DUTY FREE 365」（現Every Shop）を開設
2005年 8月	資本金2,000万円に増資
2005年 9月	株式会社日本観光公社に組織変更
2006年 2月	福岡県太宰府市水城に日本観光公社福岡店を出店
2006年 6月	長崎県対馬市厳原町大手橋に日本観光公社対馬店を出店
2006年 7月	北海道恵庭市に日本観光公社北海道店を出店
2006年 9月	日本観光公社福岡店を福岡県太宰府市国分に移転
2006年12月	資本金7,000万円に増資
2007年 8月	新日本製薬株式会社（資本金800万円）を吸収合併
2007年 9月	福岡県太宰府市に日本観光公社天満宮店を出店（2009年 2月閉店）
2007年12月	宮崎県宮崎市に日本観光公社宮崎店を出店（2009年 2月閉店）
2007年12月	大韓民国慶尚北道漆谷郡に日本観光公社韓国支店を設置（2008年 2月廃止）
2008年 9月	有限会社日本観光公社プラスより事業譲受けにより、大阪府大阪市中央区宗右衛門町に日本観光公社大阪店を出店
2009年 6月	日本観光公社東京店を東京都千代田区に移転し、日本観光公社秋葉原店としてリニューアルオープン
2010年 1月	日本観光公社大阪店を大阪府大阪市中央区瓦屋町に移転
2010年 5月	日本観光公社北海道店を北海道札幌市に移転（2019年11月閉店）
2010年 6月	Ion Latex Thai Co.,Ltd.に49%を出資
2010年 7月	愛知県名古屋市中区に日本観光公社名古屋店を出店（2020年 9月閉店）
2010年10月	京都府京都市伏見区に日本観光公社京都店を出店（2011年 1月閉店）
2010年10月	日本観光公社秋葉原店をキング電気店としてリニューアルオープン（2011年 9月閉店）
2010年10月	東京都港区にジェイティーシー東京店を出店
2011年 3月	商号を株式会社ジェイティーシーに変更（これに伴い、各店舗の名称も変更）
2011年 3月	大韓民国慶尚北道漆谷郡に韓国事務所を設置
2012年 6月	韓国事務所を大韓民国慶尚北道漆谷郡内で移転
2012年 8月	ジェイティーシー福岡店を福岡県福岡市に移転
2012年12月	山口県下関市一の宮町にジェイティーシー下関店を出店（2017年 7月閉店）
2013年 2月	沖縄県那覇市久茂地にジェイティーシー沖縄店を出店
2013年 5月	長崎県長崎市にジェイティーシー長崎店を出店（2015年12月閉店）
2013年 8月	バス事業を目的に、100%子会社として家康観光株式会社（現株式会社家康コーポレーション）を設立
2013年12月	ジェイティーシー大阪店を大阪府大阪市浪速区に移転
2014年 1月	家康観光株式会社の株式を全部譲渡
2014年 1月	山梨県南都留郡に富士の駅を出店
2014年 2月	Ion Latex Thai Co.,Ltd.の株式を全部譲渡
2014年 3月	育秀国際株式会社の全株式を取得し100%子会社化
2014年 4月	ジェイティーシー沖縄店を沖縄県那覇市安里に移転（2016年11月閉店）
2014年 4月	韓国KOSPI上場会社の現代ペイント株式会社に58.3%出資し子会社化
2014年10月	東京都新宿区にジェイティーシー新宿店を出店
2015年 1月	東京都新宿区にAKA JEWELRY新宿店を出店
2015年 1月	商号を株式会社JTCに変更（これに伴い、各店舗の名称も変更）

年月	概要
2015年 2月	資本金 6 億3,141万円に増資
2015年 2月	JTC東京店をKOO SKIN新橋店としてリニューアルオープン
2015年 2月	長崎県大村市東三城町にJTC大村店を出店
2015年 3月	現代ペイント株式会社の株式を全部譲渡
2015年 5月	福岡県福岡市にJTC福岡博多店を出店（2017年10月閉店）
2015年 6月	本店を福岡県福岡市博多区に移転
2015年 7月	沖縄県那覇市安次嶺に楽一沖縄免税店を出店
2015年 8月	大阪府大阪市中央区に楽一大阪免税店を出店（2017年 7月閉店）
2015年 9月	JTC大村店を長崎県大村市玖島に移転
2015年 9月	福岡県糟屋郡粕屋町にイオンモール福岡楽一免税店（現楽一福岡免税店）を出店
2015年11月	鹿児島県鹿児島市東海町に楽一鹿児島免税店を出店（2020年 5月閉店）
2015年11月	沖縄県中頭郡にイオンテックス沖縄店を出店（2016年 4月閉店）
2015年12月	北海道札幌市西区に楽一北海道免税店を出店
2016年 1月	熊本県宇土市水町にJTC熊本店を出店
2016年 2月	株式会社育秀国際の株式を全部譲渡
2016年 4月	長崎県諫早市貝津町に生活広場諫早店を出店（2020年 6月閉店）
2016年 9月	長崎県対馬市豊玉町に楽一对馬免税店を出店（2018年 5月閉店）
2017年 1月	熊本県八代市に生活広場八代店を出店（2019年 3月閉店）
2017年 1月	沖縄県那覇市安里に生活広場沖縄店を出店
2017年 2月	鹿児島県鹿児島市に生活広場鹿児島店を出店
2017年 4月	大阪府大阪市に地上 3 階建てDOTON PLAZA大阪を出店
2017年 7月	熊本県熊本市にドラッグ ヨシヨシを出店（2017年12月閉店）
2017年 7月	福岡県北九州市小倉北区に生活広場北九州店を出店（2020年 6月閉店）
2017年 9月	福岡県筑紫野市に生活広場福岡店を出店（2020年 6月閉店）
2017年 9月	JTC対馬店を長崎県対馬市厳原町中村に移転
2017年 9月	大韓民国ソウル市にソウル事務所を設置
2018年 2月	JTC熊本店を熊本県宇土市境目町に移転（2019年10月閉店）
2018年 4月	韓国取引所（KOSDAQ市場）上場
2018年 4月	長崎県対馬市に生活広場対馬店を出店
2018年 4月	韓国での事業展開を目的に、100%子会社として株式会社ケイボックスを設立
2018年 6月	生活広場沖縄店をJTC沖縄店に名称変更（2020年 6月閉店）
2018年 6月	株式会社ケイボックスが株式会社ケイティーシータックスフリーの株式51%を取得
2018年 7月	株主割当増資によって株式会社ケイボックスの資本金を250億ウォンへ増資
2018年 8月	株式会社ケイティーシータックスフリーがソウル水色店を出店
2018年11月	株式会社ケイティーシータックスフリーがソウル龍山店を出店（2020年 2月閉店）
2018年11月	株式会社ケイボックスが株式会社シティープラスの株式70%を取得
2019年 1月	沖縄県石垣市にドラッグ ヨシヨシ石垣島店を出店（2019年11月閉店）
2019年 1月	株式会社シティープラスが100%子会社として株式会社ディーエフケイボックスを設立
2019年 5月	熊本県宇城市に生活広場熊本店を出店（2020年 9月閉店）
2019年 5月	監査等委員会設置会社に移行
2019年11月	楽一北海道免税店を北海道札幌市白石区に移転し、JTC北海道店としてリニューアルオープン
2019年11月	沖縄県石垣市に生活広場石垣店を出店
2020年 6月	コロナ禍により、JTC北海道店・JTC新宿店・KOO SKIN新橋店・JTC大阪店・富士の駅店・KOO SKIN別府店・JTC対馬店・生活広場対馬店・JTC福岡店・JTC大村店・楽一沖縄店を休業
2022年 1月	第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型新株予約権付社債 5.8億円を発行
2022年 7月	JTC北海道店、JTC福岡店、富士の駅店の営業再開
2022年 8月	JTC新宿店の営業再開
2022年12月	AFFIRMA CAPITAL MANAGERS KOREA を引受先として50億円相当の第三者割当増資を実施
2022年12月	楽一沖縄店再オープン
2023年 2月	生活広場対馬店再オープン
2023年 3月	東京都新宿区に東京本社を開設
2023年 4月	富山県富山市にJTC富山店を出店

年月	概要
2023年 8月	宮城県仙台市にJTC仙台店を出店
2023年 8月	株式会社ケイボックスが所有する株式会社シティープラスの株式すべてを売却
2023年 9月	JTC大村店再オープン
2023年11月	長崎県東彼杵郡にドラッグヨシヨシ長崎店を出店
2024年 2月	KOOSKIN新橋店再オープン

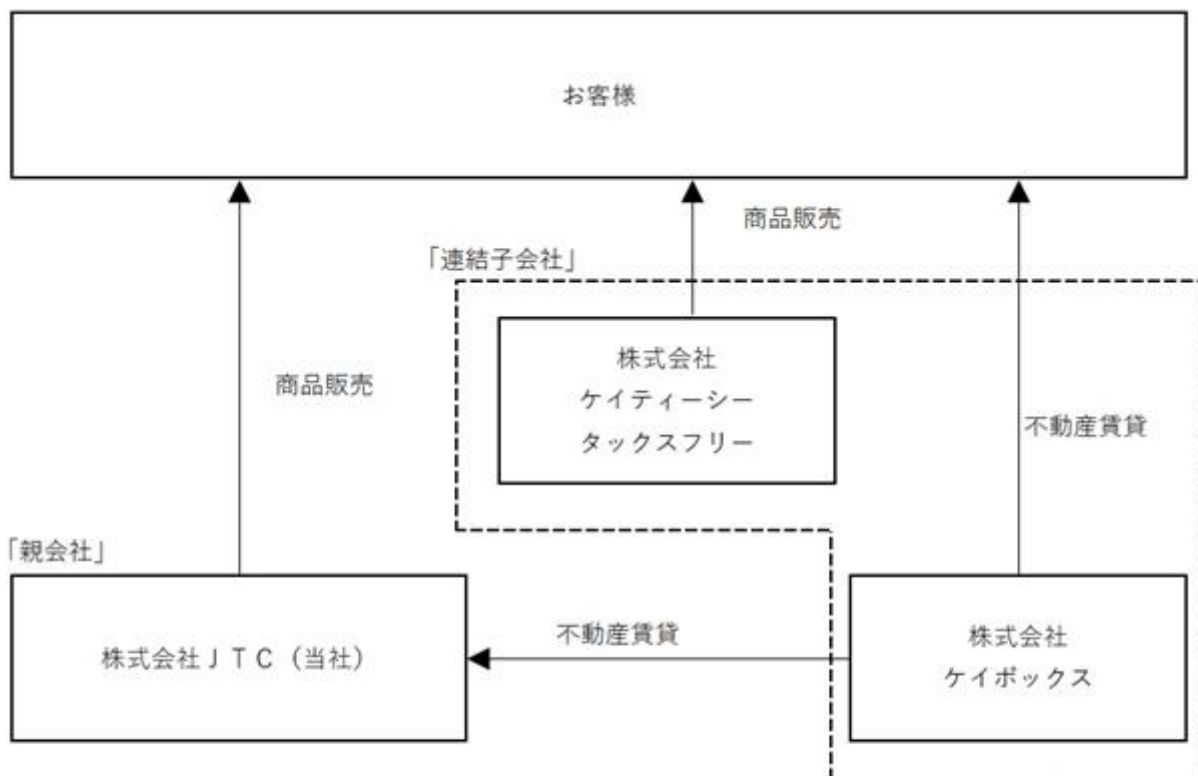
3【事業の内容】

当社グループは、「私たちは、観光産業において、人と人との繋がりをつくり出す『感動創造企業』を目指します。」を経営理念とし、主に海外からの旅行者に対して、食品・化粧品・生活用品等のお土産を販売する店舗を展開する小売業を主たる事業としております。

なお、当社グループは、小売事業のみの単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

当社グループの事業の系統図は次のとおりであります。

「事業系統図」



※株式会社ケイティーシータックスフリーは当連結会計年度末現在において事業を行っておりません。なお、2024年4月24日付で全株式を売却いたしました。

※株式会社トップシティー免税店、株式会社ディーエフケイボックス、株式会社シティープラスは当連結会計年度内に売却いたしました。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万ウォン)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合又は被所 有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社ケイボックス (注)2	大韓民国 ソウル特別市	25,000	韓国事業における ホールディングス 機能	100.0	当社へ事務所の転 貸、役員の兼任2 名、資金の貸付
株式会社ケイティ・シ ・タックスフリー (注)2	大韓民国 ソウル特別市	1,200	小売業	(注)1 51.0 (51.0)	営業上の取引なし

- (注) 1 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。
2 株式会社ケイボックス、株式会社ケイティ・シ・タックスフリーは債務超過の状況にある会社であり、債務超過の額はそれぞれ881百万円、及び1,085百万円です。
3 当社連結子会社であった株式会社シティープラス、及びその子会社である株式会社トップシティー免税店、株式会社ディーエフケイボックスは、当社連結子会社である株式会社ケイボックスが所有する株式会社シティープラスの株式をすべて売却したため、2023年8月28日付で、当社連結子会社ではなくなりました。
4 当社連結子会社である株式会社ケイボックスは、その所有する子会社株式会社ケイティ・シータックスフリーの株式を2024年4月24日付で、すべて売却しております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2024年2月29日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
小売事業	270(30)

- (注) 1 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 前連結会計年度末に比べ従業員数が106名増加しております。主な理由は新店舗開設に伴い期中採用が増加したことによるものであります。

(2) 提出会社の状況

2024年2月29日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
265(28)	36.7	3.8	3,018,185

- (注) 1 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 3 前連結会計年度末に比べ従業員数が128名増加しております。主な理由は新店舗開設に伴い期中採用が増加したことによるものであります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は結成されておりませんが、労使関係は安定しております。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異 提出会社

当事業年度					補足説明
管理職に占める女性労働者の割合(%) (注)1.	男性労働者の育児休業取得率(%) (注)2.	労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1.2			
		全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者	
31.0	33.3	83.9	79.9	203.6	-

- (注) 1 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)(以下、「女性活躍推進法」という。)の規定に基づき算出したものであります。
- 2 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)(以下、「育児介護休業法」という。)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

連結子会社

連結子会社は、女性活躍推進法及び育児介護休業法の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、以下のとおりである。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において、当社グループが判断したものであります。

(イ) 会社の経営の基本方針

当社グループは、観光に関連する事業を通して、当社グループに関係する全ての人々との繋がりをつくり出し、人々に感動を提供することを企業方針としており、海外からの旅行者に対して、食品・化粧品・生活用品等のお土産品を販売する店舗の展開を行っております。今後も免税店事業を基盤に、販売・サービスの強化や商品強化を進め、人と人との繋がりをつくり出す「感動創造企業」を目指してまいります。

(ロ) 目標とする経営指標

当社グループは、安定した配当を継続して実施していくため、目標とする経営指標につきましては、経常利益、当期純利益を重視しております。

(ハ) 経営環境及び対処すべき課題

当社グループの主たる事業である、小売事業にかかる訪日外客数の動向に関しましては、日本政府観光局（JNTO）によると、当連結会計年度における訪日外客数の累計は、27百万人と前年度と比較して約4倍増となりました。また、コロナ前の2019年度と比較して90.9%まで回復しました。

インバウンド業界では、大幅な円安の影響もあり、2023年序盤から外国人旅行消費額総額が2019年の水準近くまで回復。2023年後半には2019年同期を上回るようになり、日本政府の2023年目標である5兆円を超えました。

こうした中、当社グループは、急回復するインバウンド需要に対応するための休業店舗の再オープンや、それに伴う人員確保、業務効率化の推進、新たな旅行ルートに対応するための新規店舗の開設や、顧客ニーズの変化に対応した商品ラインナップの拡充と既存商品の圧縮等、急回復するインバウンド顧客に対応するための施策を実施しながら営業ネットワークの再構築を行ってまいります。

また、今後においても金融機関との信頼関係を保持し、適切な資金調達ができるよう努めてまいります。

経営基盤の強化としては、事業の持続的成長に向けた優秀な人材の採用及び当社グループの成長に合わせた人事制度の見直し、事業体制に応じた内部統制の整備、業務効率化による生産性向上等の組織力の強化に努めてまいります。

2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) ガバナンス

当社グループのサステナビリティに関するガバナンスは、「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等」に記載のコーポレート・ガバナンス体制の下で運営しており、当社の取締役会がサステナビリティ全般に関する責任と権限を有しております。

現時点において、当社はサステナビリティに特化した体制は構築しておりませんが、今後当社グループ全体の社会・環境の持続的発展を目指す体制強化のためにも、部署の新設あるいは既存部署での機能強化並びに活動の推進を検討してまいります。

(2) 戦略

環境保全活動について

当社グループでは、事業活動の全ての領域において、省エネルギー、省資源、リサイクルの促進、廃棄物の削減を図って参ります。

(3) リスク管理

当社グループでは、将来不確実な事象発生により損害を被る可能性をリスクとして、定期的を開催する当社リスク管理委員会にて、適宜リスクの状況を把握及び評価し、併せてその低減策を検討・実行するなどして全社的なリスク管理を行っております。

(4) 指標及び目標

環境保全活動においては、小売業という業種上、特段の削減目標等は定めておりませんが、全ての店舗において、毎月の電気、ガス等使用量の実績値を管理しており、その実績値を蓄積することで、省エネルギー、省資源について継続的に取り組みを行って参ります。

また、当社グループでは、2022年に役員や部長に占める女性の割合を10%以上とする行動計画を立案し、長時間労働の抑制や有給休暇の取得推進を実行するとともに、2024年度より年齢、性別、社歴等で区分することなく、仕事の効率や成果に応じた公正な評価・処遇を行えるよう、評価制度、賃金制度を改定しました。

3【事業等のリスク】

本有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識したうえで、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであり、将来において発生の可能性がある全てのリスクを網羅するものではありません。

特定人物への依存に関するリスク

当社の創業者であり、代表取締役である具哲謨は、会社設立以来、最高経営責任者として、当社の経営方針や事業戦略の決定をはじめ、営業を中心とする事業推進において重要な役割を担っております。当社では、適切な権限委譲を図るための組織整備、業務分掌及び職務権限規程等の整備、社内の人材育成等を行うことにより、同人へ過度に依存しない経営体制の整備を進めておりますが、同人が何らかの理由により当社の業務を継続することが困難になった場合には、当社の業績及び今後の事業戦略に影響を及ぼす可能性があります。

地震や台風等の災害、テロ活動、疫病等に関するリスク

当社の店舗及びその周辺地域において大地震や台風等の自然災害あるいは火災による建物倒壊等の予期せぬ事故が発生し、店舗・設備等に物理的損害が生じ、当社の販売活動や流通・仕入活動が阻害された場合、商品供給体制や販売体制に悪影響を及ぼす可能性があります。また、自然災害はもとより、テロ、戦争、疫病の流行、その他要因による社会的混乱が発生し、海外からの旅行者数が減少する場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

アジア地域における国際情勢の変動等に関するリスク

当社店舗への来店客は、中国、韓国を中心としたアジア地域からの旅行者となっております。したがって、これらの国々における政治・経済情勢・法規制等の変動に大きな影響を受けます。今後、これらの国々の政情不安や我が国との政治問題、外貨規制や関税、税関検査等の規制内容や裁量による運用・解釈の重大な変更が行われた場合、来客数の急激な変動に繋がり、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

競争激化に関するリスク

当社における市場環境は、百貨店、総合スーパー、コンビニエンスストア等の小売企業に加え、低価格に強みを有するディスカウントストア、ドラッグストア等も、輸出販売場許可を得てインバウンド事業に次々と参入しており競争が激化しています。当社の既存店並びに新規出店地域における他社の店舗戦略や競争状況によっては、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

為替に関するリスク

当社の店舗では顧客からのドル、元、ウォン等の外貨による支払の受付及び関係会社間での貸付や借入を行っており、外貨を円と交換するまでの間は為替相場の変動による為替差損益が生じます。為替相場の急激な変動によっては、短期間で当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

減損に関するリスク

当社は、事業活動上、店舗用土地・建物をはじめとする事業用固定資産を保有しています。これらの資産につき経済状況の悪化や競合状況の激化等により収益性の低下や地価の下落が発生した場合、減損を認識しなければならず、当社の業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

出店政策に関するリスク

当社の新規出店政策につきましては、立地条件や賃貸条件等を総合的に勘案して決定しているため、条件に合致する物件が確保できない場合、新規出店が進行せず、当社の業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

在庫に関するリスク

当社は、海外からの旅行者に向けた商品展開を行っており、海外消費者の需要の変化、当社が出店している店舗地域の天変地異等に伴い、在庫の長期滞留化、販売価格の低下に伴う在庫の評価損が発生する可能性があります。その場合には当社の業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

法的規制に関するリスク

当社は、出店地域における店舗開発、店舗営業、商品取引、環境保護等法規制を遵守し、事業を推進するうえで必要な許認可を行政から取得し、事業を行っております。しかしながら、将来において予期せぬ法規制の変更や法的規制における解釈や適用が強化された場合、また行政の指導方針の変更等が生じた場合、新たな対応コストが発生し、当社の業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

役職員の内部統制に関するリスク

当社は、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス及びリスク管理を経営上の重要な課題のひとつと位置づけており、内部統制システムの基本方針を定め、業務の有効性及び業務の効率性を確保しながら、同システムの継続的な充実・強化を図っております。また、業務運営においても役職員の不正や不法行為の未然防止に万全を期しておりますが、万が一不正や不法行為が発覚した場合、当社の社会的信用及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

個人情報保護に関するリスク

当社は、営業活動上多くの個人情報を保有しておりますが、個人情報漏洩による企業経営・信用への影響を十分に認識しており、社内にはリスク・コンプライアンス委員会を設置し、各種規程・マニュアルの整備、役職員への周知徹底等、個人情報の管理体制の整備を行っております。しかしながら、万が一情報が漏洩した場合は、損害賠償費用の発生、社会的信用の失墜等により、当社の業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

a. 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度の世界経済は、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東で勃発した紛争等の影響を受け、成長が減速しインフレが進行した一方、世界保健機関（WHO）が新型コロナウイルス蔓延に伴う緊急事態宣言の終了を正式に発表して以降、多くの国では経済活動が再び活発化し始めました。

わが国経済は、米国が金融引き締めにも関わらず堅調なことや、日銀の金融緩和等がもたらしたと思われる円安の進行などから、企業業績の改善が進むことへの期待などを受け、日経平均株価は33年ぶりの高値を更新した他、物価が徐々に上昇する緩やかな回復基調にあります。

当社グループの主たる事業である小売事業に関する訪日客数の動向については、2022年度に中国以外の国からは、新型コロナウイルス関連の規制が撤廃されて以降、訪日客数が単月でコロナ前を上回る月が出るなど順調な回復を見せています。中国からの訪日客数についても2023年8月に日本への団体旅行が解禁されて以降は継続的に回復をしております。

このような状況の中、当社グループは、休業店舗の再オープンや、新たな地域への新規出店を進めるなど、訪日客の増加に対応して参りました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高16,283百万円（前期比439.1%増）、営業利益725百万円（前期は営業損失1,864百万円）、経常利益1,197百万円（前期は経常損失1,571百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益は、3,145百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失1,583百万円）となりました。

当期の財政状態の概況は、次のとおりであります。

当連結会計年度末における総資産は19,358百万円（前連結会計年度末15,973百万円）となりました。総資産の増加は、流動資産で主に現金及び預金が508百万円、売掛金805百万円、商品976百万円がそれぞれ増加し、固定資産では有形固定資産が283百万円増加し、投資その他の資産が505百万円増加したことによるものであります。

当連結会計年度末における負債合計は5,380百万円（前連結会計年度末4,796百万円）となりました。負債の増加は、流動負債で買掛金が398百万円増加し、固定負債は長期借入金が326百万円増加したことによるものであります。

純資産合計は13,978百万円（前連結会計年度11,177百万円）となりました。純資産の増加は、利益剰余金が3,145百万円増加したことによります。

また、当社グループは、報告セグメントが単一であるため、セグメント別の記載を省略しております。

b. 経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標

当社は、収益性及び効率性の両面から体質を強化することが重要と捉え、「経常利益」及び「当期純利益」を重要な指標として位置付けております。当連結会計年度における経常利益は1,197百万円となり、経常利益率は7.4%となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は3,145百万円となりました。

c. キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ、573百万円増加し、4,490百万円となりました。当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果減少した資金は、689百万円となりました（前連結会計年度は2,012百万円の資金減）。これは主に、税金等調整前当期純利益2,524百万円あったものの、子会社株式売却益1,316百万円、売上債権の増加955百万円、棚卸資産の増加977百万円があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動の結果増加した資金は、1,226百万円となりました（前連結会計年度は197百万円の資金増）。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入1,204百万円があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動の結果増加した資金は、25百万円となりました（前連結会計年度は3,394百万円の資金増）。これは主に、長期借入金による収入700百万円があったものの、長期借入金の返済による支出654百万円があったことによるものであります。

d. 生産、受注及び販売の実績

・仕入実績

当社グループは、お土産品を販売する小売事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の仕入実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	前年同期比(%)
	仕入高(百万円)	
小売事業	4,780	480.3

(注) 1 韓国ウォンから日本円の換算については、当連結会計年度末現在におけるソウル外国為替仲介株式会社の基準為替レートにより算出しております。

2 当連結会計年度における仕入実績に著しい変動要因は、「 経営成績等の状況の概要 a.財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

・販売実績

当社グループは、お土産品を販売する小売事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の販売実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	前年同期比(%)
	売上高(百万円)	
小売事業	16,283	439.1

(注) 1 韓国ウォンから日本円の換算については、当連結会計年度末現在におけるソウル外国為替仲介株式会社の基準為替レートにより算出しております。

2 当連結会計年度における仕入実績に著しい変動要因は、「 経営成績等の状況の概要 a.財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において、判断したものであります。

a. 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。

その作成には、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、当社グループの連結財務諸表の作成に際して採用している重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

また、当社グループの連結財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定のうち、重要なものについては、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 重要な会計上の見積り」に記載しております。

b. 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当連結会計年度の経営成績の分析は、「第2 事業の状況 4. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 経営成績等の状況の概要 a. 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

c. 経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループが事業を展開していくうえで、経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 3 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

d. 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金需要のうち、主なものは事業活動資金であります。当社グループは資金の流動性確保のため、これまでの事業活動等により創出したキャッシュ・フローによる自己資本に加えて、金融機関からの借入による調達を行っております。当年度会計年度に、長期運転資金として金融機関から700百万円資金調達しました。

資本の財源についての分析は、「第2 事業の状況 4. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー状況の分析 経営成績等の状況の概要 c. キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

e. 経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等につきましては、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載しております。

5【経営上の重要な契約等】

1. 当社は、2023年8月1日開催の取締役会において、株式会社ディーワン及び株式会社ファッションイーエヌジーに対し、当社連結子会社である株式会社ケイボックスが有する株式会社シティープラスの経営権及び株式を譲渡することについて決議を行い、株式会社ケイボックスは同日付で株式及び経営権譲渡契約を締結しました。
2. 当社は、2024年4月19日開催の取締役会において、張克倫氏（株式会社ケイティ - シ - タックスフリー - の2大株主）に対し、連結子会社である株式会社ケイボックスが有する株式51%株式会社ケイティ シー タックスフリーの全株式を譲渡することについて決議を行い、株式会社ケイボックスは4月24日付で株式譲渡契約を締結しました。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度中において実施いたしました当社グループの設備投資は、総額で296百万円となりました。
当社による長崎の店舗用土地取得 108百万円
また、当社グループは小売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2024年2月29日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
九州第1エリア統括部 (4店舗)	小売事業	店舗設備	207	0	129 (2,481)	1	339	36 (2)
九州第2エリア統括部 (7店舗)	小売事業	店舗設備	253	0	159 (5,035)	4	417	34 (5)
西日本エリア統括部 (3店舗)	小売事業	店舗設備	976	0	-	11	987	52 (9)
東日本エリア統括部 (6店舗)	小売事業	店舗設備	117	0	260 (10,599)	17	395	89 (10)
福岡本社 (福岡県福岡市博多区)	小売事業	統括業務施設	3	7	19 (341)	30	61	40 (1)

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定を含んでおります。
2 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇
用者(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、()内に年間の平均人員を外数で記載し
て
おります。

(2) 在外子会社

2024年2月29日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内 容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	使用権資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
株式会社ケイボック ス	店舗 (济州特別自 治道)	小売事業	店舗設備 等	1,082	-	1,643 (9,715)	13	0	2,739	4 (2)

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定を含んでおります。
2 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの
出向者を含む。)であり、臨時雇
用者(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、()内
に年間の平均人員を外数で記載してあります。
3 前連結会計年度に記載していた株式会社シティ・プラスは2023年8月28日付で売却してあります。

3【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設等
該当事項はありません。

重要な設備の除却等
該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,308,000
計	100,308,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2024年2月29日)	提出日現在発行数(株) (2024年5月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	50,288,623	51,746,348	韓国取引所 (KOSDAQ市場)	当社は単元株制度は採用しておりません。
計	50,288,623	51,746,348	-	-

(注) 当社株式については、韓国取引所(KOSDAQ市場)上場の際し、全ての発行済株式を韓国預託決済院に預託し、これに基づいて発行された株式預託証券をもって上場する手続きを踏んでおります。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストック・オプション制度の内容】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

第5回新株予約権

決議年月日	2024年4月8日
付与対象者の区分及び人数(名)	使用人 34
新株予約権の数(個)	184,823 (注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 184,823 (注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	新株予約権1個あたり541(注)2
新株予約権の行使期間	自 2026年4月9日 至 2029年4月8日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 (注)2 資本組入額 (注)3
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当てを受けた者は、新株予約権の行使時においても、当社又は当社子会社の取締役・監査役及び従業員(執行役員を含む。)の地位にあることを要す。ただし、当社の取締役・監査役を任期満了で退任した場合又は定年退職その他正当な理由のある場合において、当社の取締役会が特に認める場合はこの限りではない。その他の条件については、当社と新株予約権の割当てを受ける者との間で締結する新株予約権の割当てに関する契約に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

提出日の前月末(2024年4月30日)現在における内容を記載しております。

(注)1 新株予約権の目的となる株式の数は、新株予約権1個につき当社普通株式1株であります。

ただし、新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式の株式分割(無償割当てを含む。)又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとします。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割(又は株式併合)の比率

また、上記のほか、付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は合理的な範囲で付与株式数を適切に調整することができるものとします。

なお、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとします。

- 2 新株予約権の発行を取締役会で決議した日（以下「発行決議日」という。）の前取引日である2024年4月5日の韓国取引所における当社普通株式を表章する韓国預託証券（以下「KDR」という。）の終値（取引が成立しない場合はそれに先立つ直近日の終値）に1.01を乗じた金額を、発行決議日の前取引日において東京の主要銀行が提示する韓国ウォン対顧客電信売り相場の為替レートで換算した円価額（1円未満の端数は切り上げる。）であります。
- 3 本新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果、1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとします。
- 4 当社が合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割若しくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、株式交換若しくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ）の直前において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとします。

ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限りま。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとします。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とします。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記（注）1に準じて決定します。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、行使価額を調整して得られる再編後の払込金額に上記（3）に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる額とします。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間
「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の初日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとします。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定します。
- (7) 新株予約権の譲渡制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会による承認を要するものとします。
- (8) 新株予約権の行使の条件
「新株予約権の行使の条件」に準じて決定します。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権付社債は、次のとおりであります。

第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型新株予約権付社債（注1）	
決議年月日	2022年1月14日
新株予約権の数（個）	25
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	-
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数（株）	普通株式 1,165,501 [1,457,725]（注2）
新株予約権の行使時の払込金額（円）	429 [343]（注3）
新株予約権の行使期間	自 2023年1月31日 至 2026年12月30日（注4）
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 429 [343] 資本組入額 215 [172]（注5）
新株予約権の行使の条件	（注6）
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権は、転換社債型新株予約権付社債に付されたものであり、本社債からの分離譲渡はできません。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-
新株予約権の行使の際に出資の目的とする財産の内容及び価額	本新株予約権の行使に際しては、当該本新株予約権に係る本社債を出資するものとし、当該本社債の価額は、その額面金額と同額とします。
新株予約権付社債の残高（百万円）	500 [-]

当事業年度の末日（2024年2月29日）における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在（2024年4月30日）にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

（注）1．本新株予約権付社債は、行使価額修正条項付新株予約権付社債券等であります。当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の特質等は以下のとおりであります。

(1) 本新株予約権付社債に付された新株予約権の行使時に交付される普通株式の数は、一定の期間における当社の市場株価を基準として修正されることがあり、当社の市場株価の下落により、交付される当社普通株式の数は増加する場合があります。

(2) 転換価額の修正の基準及び頻度

本新株予約権付社債の発行後、毎3ヶ月が経過した日（以下、個別に又は総称して「転換価額調整日」といいます。）において、各転換価額調整日前日を起算日としてその起算日からさかのぼって算定した1ヶ月の加重算術平均株価、1週間加重算術平均株価及び最近日加重算術平均株価を算術平均した価額と最近日加重算術平均株価のうち、高い価額が該当調整日の直前日現在の転換価額より低い場合、同低い価額を新しい転換価額とします。

また、上記の1ヶ月の加重算術平均株価、1週間加重算術平均株価及び最近日加重算術平均株価を算術平均した価額と最近日加重算術平均株価のうち、高い価額が該当調整日の直前日現在の転換価額より高い場合、かかる高い価額を新しい転換価額とします。ただし、発行当時の転換価額（所定の調整に服する。）を超えないものとし、

(3) 転換価額の下限及び新株予約権の目的となる株式の数の上限

下記（注）3 エに従い修正される転換価額の下限は、262円とし、本新株予約権の目的となる株式数の上限は、2,213,740株とします。ただし、下記（注）3 ア乃至ウに定めるところに従って転換価額に対して行われる調整と同様の方法による調整に服するものとし、その場合の本新株予約権の行使により交付される株式数は、行使請求に係る本新株予約権が付された本社債の券面金額の総額を当該行使請求の効力発生日において適用のある転換価額で除して得られる数となります。

(4) 当社の決定による本新株予約権付社債の全額の繰上償還を可能とする旨の条項はありません。

(5) 権利の行使に関する事項についての所有者との間の取決めの内容

当社が所有者と締結した売渡請求権（Call Option）等の行使に関する協約において、当社及び当社が指定する者（以下「買主」という）は2022年1月31日以降本新株予約権付社債の発行日から1年になる日（2023年1月30日）から本新株予約権付社債の発行日から1年11ヶ月になる日（2023年12月30日）まで1ヶ月ごとに到来する支払期日（即ち、最後の売渡請求権の行使は本新株予約権付社債の発行日以降23ヶ月になる日）に該当する日（以下「売買代金支払期日」という）に社債権者が保有している本新株予約権付社債の一部を買主に売渡すよう請求でき、社債権者は上記の請求に従い保

有している本新株予約権付社債を買主に売渡さなければならない旨を合意しております。ただし、買主はそれぞれの社債権者に対して各社債権者が保有している本新株予約権付社債の発行価額の30%を超過して売渡請求権を行使することは出来ません。また、当社が本社債の期限の利益を喪失した場合を除き、社債権者は上記協約に基づく当社の売渡請求権の行使を保障するために、同売渡請求権の最終の請求期間の終了日（2023年12月30日）まで引受契約に基づく発行当時の引受金額の30%に該当する本新株予約権付社債を未転換の状態 で保有しなければならない旨を合意しております。

(6) 当社の株券の売買に関する事項についての所有者との間の取決めの内容

該当事項はありません。

(7) 当社の株券の貸借に関する事項についての所有者と当社の特別利害関係者等との間の取決めの内容

該当事項はありません。

(8) その他投資者の保護を図るため必要な事項

該当事項はありません。

2. 本新株予約権の行使により当社が当社普通株式を交付する数は、行使請求に係る本新株予約権が付された本社債の券面金額の合算額を下記（注）3記載の転換価額で割った株式数の100%とし、1株未満の単数株はこれを切り捨て、現金による調整は行いません。

3. 各本新株予約権の行使に際しては、当該各本新株予約権が付された本社債を出資するものとします。

転換価額は、当初金373円とします。

転換価額の調整及び修正

ア. 本新株予約権付社債券を所有している者が行使請求をする前に、当社が時価を下回る発行価格に無償増資、株式配当及び準備金の資本転入などを行って株式を発行する場合には、下記のように転換価額を調整することとします。本による転換価額の調整日は無償増資、株式配当、準備金の資本転入などによる新株発行日とします。

調整後の転換価額=調整前の転換価額× $\{[A+(B \times C/D)] / (A+B)\}$

A：発行済株式数

B：新発行株式数

C：1株当たり発行価格

D：時価

ただし、上記の算式の中「発行済株式」は当該調整事由が発生する直前日現在の発行済株式総数とします。また、上記の算式中「1株当たり発行価格」は、株式分割、無償増資、株式配当の場合にはゼロ（0）にし、上記の算式の「時価」は、発行価格の算定の基準になる基準株価（又は調整事由発生前日を起算日として計算した基準株価）とします。また、当社が本社債の転換価格を下回る発行価格で無償増資又は株式関連社債（転換社債、新株引受権付社債及びその他の株式に転換することのできる種類の社債）を発行する場合には、転換価格はその下回る発行価格に調整します。

イ. 合併、資本金の額の減少などにより転換価額の調整が必要な場合には、当該事由発生直前に本新株予約権が行使され全て株式に転換されたら社債権者が持つことのできた株式数に応じた価値に見合うべく転換価額を調整します。当社がこのような措置を怠ったことにより転換社債権者が損害を被った場合、当社はその損害を賠償しなければなりません。また、当社は、社債権者の権利に不利な影響を及ぼすやり方での合併、分割及び事業の譲受け又は譲渡をしてはならないし、継続し上場を維持する義務を負担します。

ウ. 当社普通株式の減資及び株式併合など株式価値の上昇事由が発生する場合、減資及び株式併合等による調整割合分だけ上方修正し反映する条件で転換価額を調整します。ただし、減資及び株式併合等のための株主総会決議日の前日を起算日とし、「証券の発行及び公示などに関する規定」第5-22条第1項本文の規定による算定（第3号は除く）した価額（以下「算定価額」という）が額面額未満でありながら、起算日前に転換価額を額面額に既に調整した場合（転換価額を額面額未満に調整できる場合は除く）には、調整後の転換価額は算定価額を基準に減資及び株式併合等による調整割合分だけ上方修正した価額以上の価額に調整します。

エ. 上記のア乃至ウとは別に、本新株予約権付社債の発行後、毎3ヶ月が経過した日（2022年4月30日、2022年7月30日、2022年10月30日、2023年1月30日、2023年4月30日、2023年7月30日、2023年10月30日、2024年1月30日、2024年4月30日、2024年7月30日、2024年10月30日、2025年1月30日、2025年4月30日、2025年7月30日、2025年10月30日、2026年1月30日、2026年4月30日、2026年7月30日、2026年10月30日）を転換価額調整日とし、各転換価額調整日前日を起算日としてその起算日からさかのぼって算定した1ヶ月の加重算術平均株価、1週間加重算術平均株価及び最近日加重算術平均株価を算術平均した価額と最近日加重算術平均株価の内、高い価額が該当調整日の直前日現在の転換価額より低い場合、同低い価額を新しい転換価額とします。ただし、上記のように算出された転換価額が発行当時の転換価額（調整日の前、上記のア乃至ウに従って新株割引等又は減資等の事由により転換価額を既に下方又は上方修正

した場合には、これを勘案して算定した価額)の70%を下回る場合には、発行当時の転換価額の70%に相当する価額を新しい転換価額とします。

- オ．上記エに基づく転換価額の下方修正が起こった後、毎3ヶ月が経過した日を上方転換価額調整日とし、各転換価額調整日前日を起算日としてその起算日からさかのぼって算定した1ヶ月の加重算術平均株価、1週間加重算術平均株価及び最近日加重算術平均株価を算術平均した価額と最近日加重算術平均株価の内、高い価額が該当調整日の直前日現在の転換価額より高い場合、かかる高い価額を新しい転換価額とします。ただし、上記のように算出された転換価額が発行当時の転換価額(上方転換価額調整日の前に、上記のア乃至エに従って新株割引発行等又は減資等の事由により転換価額を既に調整していた場合には、これを勘案して算定した価額)を超えないものとします。
- カ．本による調整及び修正による転換価額の算出については、上記ア乃至オに基づき算出された価額のウォン単位未満は切り上げた上で、起算日(上記アについては調整事由発生前日とし、上記イについては事由発生直前の日とする。)当日のソウル外国為替仲介(株)の為替レートを適用して円換算した価額(円単位未満は切り上げる。)とします。
- 4．本新株予約権の行使期間は、本新株予約権付社債発行後、1年が経過した日(2023年1月31日)から満期日1ヶ月前(2026年12月30日)までとしますが、行使請求期間の末日が営業日でない場合は前営業日とします。ただし、以下の期間については、行使請求をすることができないものとします。
- ア．満期日1ヶ月前以前に本新株予約権付社債が早期償還される場合には、当該償還に係る元金が支払われる日の前営業日以降
- イ．当社が本新株予約権付社債につき期限の利益を喪失した場合には、期限の利益を喪失した日以降
- 5．本新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、日本の会社計算規則第17条に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとします。
- 6．本新株予約権は、月2回を限度とし、最小金額20,000,000円以上、20,000,000円単位で行使ができます。ただし、本欄の条件は月2回の限度内で本新株予約権の最終行使時など、当社との事前協議を通じて本新株予約権行使額の調整ができます。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型新株予約権付社債

	下半期 (2023年9月1日から 2024年2月29日まで)	第30期 (2023年3月1日から 2024年2月29日まで)
当該行使期間に権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数(個)	-	-
当該期間の権利行使に係る交付株式数(株)	-	-
当該期間の権利行使に係る平均行使価額等(円)	-	-
当該期間の権利行使に係る資金調達額(百万円)	-	-
当該機関の末日における権利行使された当該行使価額修正条項付き新株予約権付社債検討の数の累計(個)	-	4
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の交付株式数(株)	-	195,599
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の平均行使価額等(円)	-	409
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の資金調達額(百万円)	-	80

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2022年12月9日 (注)1	15,087,507	50,093,024	2,586	7,441	2,586	7,362
2023年2月20日 (注)2	195,599	50,288,623	40	7,481	40	7,403
2024年1月17日 (注)3	-	50,288,623	7,381	100	-	7,403

(注)1 第三者割当増資

割当先 アセントア第五号私募投資合資会社
発行価格 343円(3,314ウォン)
資本組入額 171.5円

2 第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型新株予約権付社債の転換権一部行使

割当先 株式会社dodo
発行価格 409円(3,865ウォン)
資本組入額 204.5円

3 2024年1月10日開催の臨時株主総会において、資本金を7,381百万円減少し、その内2,777百万円を欠損補填に充当することを決議しております。

4 2024年4月30日に第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型新株予約権付社債の転換が行われて発行株式数1,457,725株、資本金及び資本準備金がそれぞれ250百万円増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2024年2月29日現在

区分	株式の状況(注)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	-	1	8	22	7,670	11	7,712	-
所有株式数(千株)	-	-	352,130	2,002,453	15,458,817	11,343,103	21,132,120	50,288,623	-
所有株式数の割合(%)	-	-	0.70	3.98	30.74	22.55	42.02	100	-

(注) 当社普通株式は、韓国預託証券の預託機関である韓国預託決済院を名義人としており、上記及び以下の「(6)大株主の状況」は韓国預託証券を保有している実質所有者について記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2024年 2月29日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
具 哲謨	東京都新宿区	20,867	41.49
アセント第五号私募投資合資会社	47, Jong-ro, Jongno-gu, Seoul, Republic of Korea	15,087	30.00
株式会社KU	大分県別府市新港町 5 番 1 -506号	1,440	2.86
E*TRADE SECURITIES CO., LTD	23rd Floor, Post Tower, 60 Yeouinaru-ro, Yeongdeungpo-gu, Seoul, Republic of KOREA	352	0.70
Ku Myoung Wan	Pocheon-si, Gyeonggi-do, Republic of Korea	325	0.64
株式会社dodo	福岡県福岡市博多区東那珂 3 丁目 3 番37号	193	0.38
ワールド投資株式会社	福岡県大野城市乙金 2 丁目16番28号	178	0.35
Seok Dongho	Changwon-si, Gyeongsangnam-do, Republic of Korea	174	0.34
Kang Chang Gyoon	Haeundae-gu, Busan, Republic of Korea	163	0.32
Jang Hyun young	Haeundae-gu, Busan, Republic of Korea	154	0.30
計	-	38,935	77.42

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2024年 2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式50,288,623	50,288,623	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	50,288,623	-	-
総株主の議決権	-	50,288,623	-

【自己株式等】

2024年 2月29日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3【配当政策】

当社は、利益配分につきまして、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくこととし、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

この剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当が発生する場合は取締役会であります。また、当社は、「剰余金を株主総会の決議によって、毎事業年度末日における最終の株主名簿に記載、記録された株主又は登録株式質権者に配当する。」旨を定款に定めております。

上記の利益配分の基本的な方針等に基づき、当期の期末配当金（年間配当金）につきましては、収益回復に向けた財務基盤の安定化が急務であると考え、無配とさせていただきます。

株主の皆様には大変申し訳なく思っておりますが、今後におきましては、業績の回復に沿って従来からの基本方針である継続的かつ安定的な株主還元の実現に努めてまいりますので、ご理解賜りたく存じます。

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

当社グループは、「私たちは観光産業において、人と人との繋がりをつくり出す『感動創造企業』を目指します。」という経営理念のもと、株主をはじめ、顧客、取引先、従業員、地域社会等の全てのステークホルダーの利益を重視した経営を行うことが当社の使命であると考えております。そのためには、当社グループ事業が安定的かつ持続的な発展を果たすことが不可欠であり、このような発展の基盤となる経営の健全性、透明性及び効率性が確保された体制の整備を進めることをコーポレート・ガバナンスの取組みに関する基本方針としております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

a. 企業統治の体制の概要

当社は、監査等委員会設置会社として、取締役会の経営機能(経営の基本方針の審議・決定)及び業務執行の機動性の更なる向上並びに監督機能の一層の強化を図っているほか、社外取締役が過半を占める監査等委員会が、取締役の業務執行に係る監査を行うとともに、各監査等委員が取締役会の決議において議決権を行使することで、経営に対するモニタリング機能を強化し、監査・監督の実効性の向上を図っております。

・取締役会

取締役会は、本報告書提出日現在の取締役(監査等委員である取締役を除く。)5名及び監査等委員である取締役3名の計8名(うち社外取締役3名)で構成され、毎月1回の定時取締役会の開催に加え、必要に応じて臨時取締役会を開催し、迅速かつ的確な意思決定を行っております。取締役会では、法令・定款に定められた事項のほか、経営上の重要な事項に関する意思決定、取締役の業務執行の監督機関として機能しております。

・監査等委員会

監査等委員会は、本報告書提出日現在の監査等委員である取締役3名(うち社外取締役3名)で構成され、うち常勤監査等委員を1名選任しております。毎月1回の定時監査等委員会の開催に加え、必要に応じて臨時監査等委員会を開催し、法令、定款で定められた事項のほか、監査計画の策定、監査実施状況、監査結果の検討等、監査等委員相互の情報共有を図っております。

・コンプライアンス委員会

当社グループは、コンプライアンスに関する重要方針の決定、意識向上を図るための体制作りや施策を推進するため、コンプライアンス委員会を設置しております。コンプライアンス委員会は、コンプライアンス担当役員を委員長、その委員長が指名する者を構成員とし、必要に応じて開催しております。

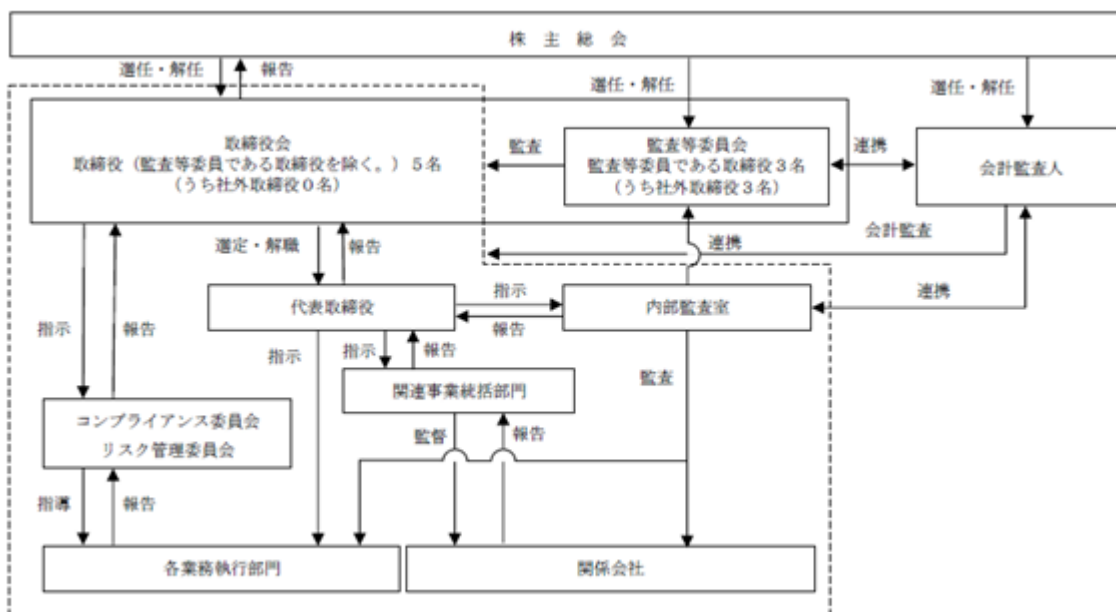
・リスク管理委員会

当社グループは、リスク管理体制の構築やリスクの識別、評価、対策等の審議を行うことを目的として、リスク管理委員会を設定しております。リスク管理委員会は、リスク管理担当役員を委員長、その委員長が指名する者を構成員とし、必要に応じて開催しております。

各機関ごとの構成員は次のとおりであります(は議長又は委員長、○は構成員を示しております)

役職名	氏名	取締役会	監査等委員会	コンプライアンス委員会	リスク管理委員会
代表取締役社長	具 哲 謙				
取締役副社長	山 本 文 矢				
取締役	野 村 和 弘			○	○
取締役	魏 春 載	○			
取締役	呉 洪 在	○			
社外取締役(常勤監査等委員)	加 藤 克 彦				
社外取締役(監査等委員)	堀 芳 郎				
社外取締役(監査等委員)	敷 地 健 康				
執行役員	朴 泳 培				
執行役員	趙 ジ ョ ン 勲				
執行役員	紀 伊 克 彦			○	○
執行役員	浦 佳 楽			○	○
執行役員	岡 島 徹			○	○
他業務執行部門 部門長	4 名				

当社グループのコーポレート・ガバナンス体制の概念図は、以下に記載のとおりであります。



b. 当該体制を採用する理由

当社は、社外取締役が過半を占める監査等委員会が、取締役の業務執行に係る監査を行うとともに、各監査等委員が取締役会の決議において議決権を行使することで、経営に対する効率的かつ迅速な職務執行とモニタリング機能の強化を図る監査等委員会設置会社を採用し、当社グループのコーポレート・ガバナンス体制の一層の充実・強化を図るとともに経営の透明性・客観性を向上させることを意図したものであります。

企業統治に関するその他の事項

a. 内部統制システム整備の状況

当社グループは、業務の適正性を確保するための体制として、取締役会において以下の「内部統制システムの基本方針」について決議し、当社グループの内部統制が適切に機能する体制を整備しております。当該基本方針の内容の概要は以下のとおりであります。

・取締役及び使用人の業務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社グループは、内部統制を有効に機能させるためにコンプライアンス規程を整備し、内部統制を有効に機能させるための機関としてコンプライアンス委員会、その下部組織としてコンプライアンス担当役員を統括責任者とするコンプライアンス統括部門を設置し、当社グループのコンプライアンスに関する体制の整備、是正等に関する企画立案、調整及び推進を行います。更に、内部監査が実効的に行われることを確保するための体制を整備し、内部監査規程に沿って各部署における業務執行が法令・定款に適合しているかの内部監査を実施します。

・取締役の業務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社グループは、法令及び文書管理規程等の社内規程に基づき文書等の保存を行います。また、情報の管理は、情報管理規程やその他の諸規程に基づいて適切に行います。

・損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社グループは、役職員が業務執行並びに業務遂行する際に、当社グループ内外に潜むリスクについてそれぞれの担当部署において把握し、各種会議等への報告を行い、その影響度合いを検討しながら対処を行います。また、新たに生じたリスクへの対応が必要な場合は、速やかに対応責任者を定めて対処を行います。

・取締役の業務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社グループは、定例の取締役会を原則として月1回開催し、重要事項の決定及び取締役の業務執行の監督を行います。更に、組織、指揮命令系統、業務分掌等を定めた組織規程を制定し、職務権限規程に基づく業務執行上の責任体制を確立することにより、業務の効率的な執行を図ります。また、代表取締役は、会社組織の構築・見直しを行い、その効率的な運用と監視監督体制の整備を行います。

- ・ 当社グループの監査等委員がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及びその他監査等委員の監査が実効的に行われることを確保するための体制
監査等委員が職務を補助する使用人として必要と判断した場合は、必要に応じて人員を配置します。また、監査等委員の職務補助のために担当者を置いた場合は、その取扱いについて取締役（監査等委員である取締役を除く。）と監査等委員が事前に協議のうえ決定します。
- ・ 前項の使用人の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
監査等委員の職務を補助すべき使用人は、監査等委員の指示命令により職務を行います。
- ・ 監査費用の前払又は償還の手続その他の監査費用等の処理に係る方針に関する事項
監査等委員会及び監査等委員の職務の執行上必要と認める費用については、あらかじめ予算を計上します。ただし、緊急又は臨時に支出した費用については、事後に償還に応じます。
- ・ 取締役、その他使用人等が当社グループの監査等委員に報告するための体制及び監査等委員に報告した者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
監査等委員は、取締役会その他の重要会議に出席し、重要事項の審議と経営判断の過程を確認するとともに、必要に応じて取締役（監査等委員である取締役を除く。）又は関係部門の責任者に説明を求めると、及び重要な決裁書類等の閲覧、経営情報をはじめとする各種情報を取得することができる体制を整備しています。
また、当社グループの取締役及び使用人は、不正又は法令及び定款等の違反等、又は内部通報があった事項等、会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を発見した場合には、監査等委員に報告するものとします。なお、報告事項が虚偽であった場合を除き、監査等委員へ報告を行った取締役及び従業員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社の取締役及び従業員に周知徹底しています。
- ・ その他監査等委員の監査が実効的に行われることを確保するための体制
監査等委員会は、独自に意見形成するため、必要に応じて外部法律事務所等と連携します。また、監査の実施にあたり必要と認めるときは、自らの判断で公認会計士、コンサルタントその他の外部アドバイザーを活用します。
- ・ 反社会的勢力による被害を防止するための体制
市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対して、不当な要求や取引については、毅然とした態度で対処するとともに、これらの活動を助長するような行為は一切行いません。反社会的勢力からの不当な要求等の問題が発生した場合、社内の適切な部署及び機関と情報の共有を図るとともに、必要に応じて顧問弁護士や警察関係者等の外部専門機関と連携し、組織全体で対応します。

リスク管理体制の整備

当社グループは、リスク管理規程を定め、リスク管理担当役員がリスク管理委員会の委員長となり、その委員長が指名する者を構成員とし、リスク管理体制の構築・運営を図っております。

具体的には、リスク管理委員会においてリスクの識別（抽出）、定性的・定量的なリスク評価と測定、リスクの原因分析及びリスク管理の戦略・対応策の策定、対応策のスケジュール作成等を行い、これに基づき各部署及び各店舗において、対応策の導入・実施を行っております。そして、各部署及び各店舗は対応策の導入による結果や実施状況につきセルフモニタリング、その後内部監査によるモニタリングを行っております。リスク管理委員会にて、このモニタリングの結果報告が行われることで、より効果的な対応策が検討され、リスク管理体制整備の一層の強化、当社グループに潜むリスクの未然防止や会社損失の最小化に努めております。

また、リスク管理体制の構築・整備の一環として、リスク管理委員会が全社的なリスク管理の教育・研修を計画・実施することで対応策の実効性をあげることに努めております。

関係会社の業務の適正を確保するための体制整備

当社及び当社の関係会社は、業務の適正を確保するため、業務の実態に対応した諸規程を定めるものとしております。また、当社の取締役会は、当社関係会社に対して経営数値その他の重要な情報等について定期的に報告させるとともに、連絡会議及び取締役会等を通じて情報を共有し、統制・監督を行っております。

取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の取締役（取締役であった者を含む）の賠償責任を、法令に定める要件に該当する場合には賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として免除することができる旨を定款に定めております。これは取締役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

責任限定契約

当社は、会社法第427条第1項に基づき、取締役（業務執行取締役等であるものを除く）との間において、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役（業務執行取締役等であるものを除く）が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

取締役の定数

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）は3名以上、監査等委員である取締役は3名以上とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、監査等委員である取締役とそれ以外の取締役とを区別して、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は累積投票によらない旨を定款に定めております。

自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能にするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当することができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上かつ発行済株式総数（自己株式を除く。）の3分の1以上をもってこれを行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役会の活動状況

当事業年度において、当社は取締役会を20回開催しており、個々の取締役の出席状況は以下のとおりであります。

役職名	氏名	開催回数	出席回数
代表取締役社長	具 哲謨	20回	18回
取締役副社長	山本 文矢	6回	5回
取締役	野村 和弘	20回	19回
取締役	松元 篤男	14回	14回
取締役	金 泰燁	20回	14回
取締役	李 賢鎬	20回	16回
取締役	下 相茂	4回	3回
社外取締役（常勤監査等委員）	佐藤 純幸	16回	15回
社外取締役（監査等委員）	堀 芳郎	20回	19回
社外取締役（監査等委員）	敷地 健康	20回	20回
社外取締役（監査等委員）	小島 伸穰	4回	4回

（注）1 当事業年度における各取締役の在任期間に基づいております。

2 2023年5月26日開催の定時株主総会終結の時をもって、下相茂氏、小島伸穰氏は取締役を退任しております。

3 2023年10月31日開催の臨時株主総会において、松元篤男氏は取締役を辞任しております。

4 2023年10月31日開催の臨時株主総会において、山本文夫氏は新たに取締役に選任され就任しております。

取締役会において、会社の経営方針、経営戦略、事業計画等の経営上重要な事項に関して検討し、意思決定したほか、業務執行状況の監督を実施いたしました。

(2) 【 役員の状況】

役員一覧

男性 8 名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長執行役員	具 哲謨	1962年10月11日生	1991年 3月 西山興業株式会社 1993年 5月 東京電気商会別府店 1994年 3月 当社設立 代表取締役 2017年 3月 当社 代表取締役 社長執行役員 (現任) 2018年 4月 株式会社ケイボックス 取締役 (現任) 2020年 5月 当社 営業本部長	(注) 2	20,867
取締役 副社長 執行役員 管理本部長	山本 文矢	1981年 9月26日生	2006年 3月 シティーグループ株式会社 2011年 1月 シティーバンク銀行株式会社 バイスプレジデント 2015年 8月 マスターカードジャパン株式会社 ディビジョン・ ファイナンス・オフィサー 2018年 8月 同社 副社長マーケット・ディベロップメント・ヘ ッド 2023年 3月 当社入社 副社長 2023年10月 当社 取締役副社長執行役員 管理本部長 (現任)	(注) 2	-
取締役 営業本部長 執行役員 営業推進部長	野村 和弘	1965年 8月 8 日生	1991年 3月 錦湖アジアナグループ 入社 グループ会長 付属室 新規事業チーム 1995年 4月 同社 経営戦略企画チーム 課長 2002年 1月 株式会社斗山 食品事業部海外事業営業本部 営業企画管理チーム 次長 2005年 1月 同社 海外事業営業本部 営業企画管理チーム 兼 商品開発チーム 部長 2007年 6月 株式会社俄コリア 支社長 2013年11月 株式会社モンシェール韓国法人 支社長 2016年10月 当社入社 社長室 室長 2017年 4月 当社 西日本エリア統括部 部長 2020年 3月 当社 執行役員 営業本部 営業推進部長 (現任) 2020年12月 当社 取締役 営業副本部長 2021年 1月 株式会社ケイボックス 監査役 (現任) 2021年 5月 当社 取締役 営業本部長 (現任)	(注) 2	-
取締役 (非常勤)	魏 春載	1980年 3月12日生	2012年 3月 大韓民国 陸軍 軍法務官 2018年 1月 西村あさひ法律事務所 外国弁護士 2020年 2月 法務法人 有限責任 太平洋 パートナー弁護士 2020年 4月 法務法人 有限責任 律村 パートナー弁護士 (現任) 2024年 5月 当社入社 取締役 (現任)	(注) 2	-
取締役 (非常勤)	呉 洪在	1988年 8月10日生	2012年 5月 B M Wグループ・フィナンシャル・サービス 管理インターン 2015年10月 P A Gインベストメント・マネジメント・リミテッ ド 投資チーム アナリスト 2017年 7月 オーチャード・アドバイザーズ・コリア ソウル 事務所 主席 2023年 2月 インビクタス・プライベート・エクイティ・アジア 代表 (現任) 2024年 4月 株式会社大元プラント 取締役 (現任) 2024年 4月 株式会社大元農産 取締役 (現任) 2024年 5月 当社入社 取締役 (現任)	(注) 2	-
取締役 (監査等委員) (常勤) 監査等委員会 委員長	加藤 克彦	1961年 4月 3 日生	1984年 4月 三菱商事株式会社 入社 1998年 4月 いすゞフィリピン株式会社 副社長 (出向) 2003年11月 三菱商事株式会社 いすゞ事業本部 中東アフリカ チームリーダー 2012年 5月 同 監査部 (社内出向) 2013年 5月 関西ペイント株式会社 国際本部 部長 2016年 4月 同 執行役員 2020年 4月 同 理事 2021年 6月 サンデンホールディングス株式会社 社外監査役 2024年 5月 当社 取締役監査等委員 (現任)	(注) 3	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 (監査等委員) (非常勤)	堀 芳郎	1964年 7月26日生	1989年 9月 青山監査法人福岡事務所 1995年 7月 堀公認会計士事務所 代表社員(現任) 2000年 1月 福岡監査法人 代表社員(現任) 2011年 1月 当社 社外監査役 2014年12月 福岡大学 監事(現任) 2019年 4月 熊本国際空港株式会社 非常勤監査役(現任) 2019年 5月 当社 取締役監査等委員(現任)	(注) 3	76
取締役 (監査等委員) (非常勤)	敷地 健康	1968年 1月19日生	1998年 4月 北浜法律事務所 2007年 1月 弁護士法人北浜法律事務所 パートナー弁護士(現任) 2009年 3月 税理士登録(現任) 2012年 7月 株式会社ベガコーポレーション 社外監査役 2015年 7月 同社 社外取締役 2015年 7月 当社 社外監査役 2019年 5月 当社 取締役監査等委員(現任) 2023年 6月 株式会社山口フィナンシャルグループ 社外取締役 監査等委員(現任)	(注) 3	-
計					20,943

(注) 1 加藤克彦氏、堀芳郎氏及び敷地健康氏は、社外取締役であります。

2 2024年 5月29日開催の定時株主総会終結の時から、1年間

3 2023年 5月26日開催の定時株主総会終結の時から、2年間

社外取締役の状況

当社の社外取締役は、3名全員が監査等委員である取締役であります。

・監査等委員である社外取締役の加藤克彦氏は、事業会社において国際業務、監査業務の豊富な経験を有しており、この幅広い知見を活かし、客観的かつ公正な立場より、常勤の監査等委員として、当社グループのコーポレート・ガバナンスの確立、監視・監督機能の強化に努めております。なお、加藤克彦氏との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

・監査等委員である社外取締役の堀芳郎氏は、公認会計士として企業会計に関する知見を有しており、当社グループのコーポレート・ガバナンスの確立、監視・監督機能の強化に努めております。なお、堀芳郎氏は当社の株式76,000株を保有しておりますが、その他、人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

・監査等委員である社外取締役の敷地健康氏は、弁護士として培われた高度な人格と専門的な法務及びコンプライアンスに対する知見を有しており、当社グループのコーポレート・ガバナンスの確立、監視・監督機能の強化に努めております。なお、敷地健康氏との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役(監査等委員を除く。)又は監査等委員である社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会による監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役には、客観性を保った実効的なコーポレート・ガバナンスの確立、監視・監督機能の強化のため、重要な責務を担って頂いております。そこで、社外取締役との窓口として、コンプライアンス管掌部門、経理管掌部門及び内部監査部門等から、必要な意見交換や説明を受けられるよう支援体制を整えております。また、全員が社外取締役で構成される監査等委員会においては、監査の計画、実施状況等について、代表取締役、社外取締役(監査等委員を除く。)及び会計監査人との意見交換を行うこととしております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会監査の状況

監査等委員会は、取締役監査等委員である3名（うち社外取締役3名）で構成されており、独立性を確保した立場から監査を行っております。監査等委員である取締役の堀芳郎氏は公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する者であります。

また、監査等委員会は、会計監査人との情報交換を積極的に行い、緊密な連携を図り、更に内部監査室の行う業務監査に対する指導・助言等を行うことで、内部牽制が十分機能するように努めております。また、内部監査室より内部統制の整備及び運用状況の評価について適宜報告を受けております。

当事業年度の監査等委員会においては、当社グループのコーポレート・ガバナンスや内部統制システムの整備及び運用状況、会計監査人の評価などを主な検討事項として審議しております。

また、常勤取締役監査等委員の主な活動としては、取締役会、社内の重要な会議及び各種委員会にも出席し、内部統制システムの構築・維持や社内の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言などを行っております。

監査等委員会の出席状況

氏名	開催回数	出席回数
佐藤 純幸	15回	11回(73.3%)
堀 芳郎	15回	15回(100%)
敷地 健康	15回	15回(100%)

内部監査の状況

内部監査は、内部監査室を監査業務の一層の充実のために社長直轄の独立した組織とし、業務が法令、定款、諸規程に基づき、適法・適正且つ効率的に行われているかを検証しております。

また、監査等委員会や会計監査人との情報交換を積極的に行い、緊密な連携を図ることで内部牽制が十分機能するように努めております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

如水監査法人

b. 継続監査期間

1年間

c. 業務を執行した公認会計士

指定責任社員 業務執行社員 児玉 邦康

指定責任社員 業務執行社員 松尾 拓也

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他1名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると判断した場合又は会計監査人の職務の執行に支障がある場合には、会計監査人の解任又は不再任に関する決定を行う方針であります。また、監査等委員会が如水監査法人を会計監査人とした理由は、会計監査人としての品質管理体制、専門性の有無などを総合的に勘案し検討した結果、適任と判断したためであります。

f . 監査等委員及び監査等委員会による監査法人の評価

当社は、監査法人の評価に関し、「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」（公益社団法人日本監査役協会）に準拠し、実施しております。定期的な意見交換や監査実施状況の報告などを通じて、独立性、専門性、職務執行状況に問題がないかを確認しております。

g . 監査法人の異動

当社は、2023年5月26日開催の第29期定時株主総会において、次の通り監査法人を異動しております。

第29期（自2022年3月1日 至2023年2月28日 連結・個別）赤坂有限責任監査法人

第30期（自2023年3月1日 至2024年2月29日 連結・個別）如水監査法人

なお、臨時報告書（2023年4月28日）に記載した事項は次の通りです。

（1）当該異動に係る監査公認会計士等の名称

選任する監査公認会計士等の名称 如水監査法人

退任する監査公認会計士等の名称 赤坂有限責任監査法人

（2）当該異動の年月日

2023年5月26日（第29期定時株主総会開催日）

（3）退任する監査公認会計士等が監査公認会計士等となった年月日

2023年5月30日

（4）退任する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等における意見等に関する事項

該当事項はありません。

（5）当該異動の決定又は当該異動に至った理由及び経緯

当社の会計監査人である赤坂有限監査法人は、2023年5月26日開催の第29期定時株主総会の終結時をもって任期満了となります。監査等委員会は、2023年3月17日に公認会計士・監査審査会より金融庁長官に対し、赤坂有限責任監査法人に対して行政処分その他の措置を講ずるように勧告があったこと等に鑑み、複数の監査法人の比較検討を行ってまいりました。

この結果、監査等委員会は、会計監査人としての専門性、独立性、品質管理体制、監査報酬の水準並びに新たな視点での監査が期待できること等を総合的に勘案し、新たに如水監査法人を会計監査人として選任するものです。

（6）上記（5）の理由及び経緯に対する意見

退任する監査公認会計士等の意見

特段の意見はない旨の回答を得ております。

監査等委員会の意見

妥当であると判断しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	27	-	27	-
連結子会社	-	-	-	-
計	27	-	27	-

(注) 当社においては、韓国取引所(KOSDAQ市場)に上場しており、「株式会社の外部監査に関する法律」による会計監査及び内部会計管理制度のレビュー、「資本市場及び金融投資業に関する法律」による四半期財務諸表及び半期財務諸表のレビューのために、KPMGグループのサムジョン会計法人とドンヒョン会計法人に対し別途監査報酬が発生しております。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	-	-	-	-
連結子会社	-	-	-	-
計	-	-	-	-

c. 監査報酬の決定方針

当社の規模・特性・監査日数等を勘案し、監査等委員会の同意を得た上で決定しております。

d. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、過年度の監査計画における監査項目別、階層別監査時間の実績及び報酬額の推移並びに会計監査人の職務遂行状況を確認し、当事業年度の監査計画及び報酬等の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等について、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

- (1) 当社は、2021年4月14日開催の取締役会において、以下の通り取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針等を決議いたしました。

また、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法及び決定された報酬等の内容が取締役会で決定された決定方針と整合しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

基本報酬等（金銭報酬）の個人別の報酬等の額の決定に関する方針（報酬等を与える時期又は条件の決定に関する方針を含む。）

当社取締役の基本報酬は、固定報酬とし、当社の経営環境、世間水準、社員給与とのバランス等を考慮し、また、それぞれの役位に期待すべき役割、責務等を勘案し決定する。基本報酬は、年額を12等分して毎月支給する。また、当社取締役には、当該取締役の在任年数、在任中の役位、功績等を総合的に勘案して決定される退職慰労金を、退任後3ヶ月以内に支給するものとする（固定報酬と退職慰労金を併せて、「基本報酬等」という。）。

非金銭報酬等の内容及び額又は数の算定方法の決定に関する方針（報酬等を与える時期又は条件の決定に関する方針を含む。）

当社役員が株主価値の向上を意識した経営を行うことのインセンティブとして、株主価値の向上に資する顕著な功績が認められる場合、株式報酬型ストック・オプションを支給することがある。株式報酬型ストック・オプションの内容は新株予約権とする。この場合、割り当てる新株予約権の数は、各取締役について、取締役在任年数、役位、功績等を総合的に勘案した上で、決定し、各事業年度に係る定時株主総会の属する月の翌月以降1年間のうちに速やかに各取締役に割り当てる。

金銭報酬の額又は非金銭報酬等の額の取締役の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針
株主価値の向上に資する顕著な功績が認められるときに株式報酬型ストック・オプションが付与される場合を除き、原則として、報酬等の全割合を基本報酬等とする。非金銭報酬（株式報酬型ストック・オプション）を支給する場合の取締役の基本報酬及び非金銭報酬（株式報酬型ストック・オプション）の割合の目安は、当社の業績、従業員の賞与水準、中長期的な業績、他社の動向等を総合的に勘案したうえで、決定する。

取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

各取締役の基本報酬の額については、取締役会決議に基づき代表取締役にその決定を委任する。代表取締役は、株主総会において決議いただいております限度額の枠内で、当該決定を行う。

- (2) 各取締役の基本報酬の額の決定を代表取締役に委任した理由は、当社全体の業績等を勘案しつつ各取締役の担当部門についての評価を行うには、代表取締役が適していると判断したためであります。
- (3) 監査等委員である取締役の報酬については、株主総会において決議いただいております限度額の枠内で、監査等委員である取締役の協議により決定しております。
- (4) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬額については、2019年5月29日開催の第25期定時株主総会において、年額300百万円（うち社外取締役は50百万円）と決議いただいております。監査等委員である取締役の報酬額については、2019年5月29日開催の第25期定時株主総会において、年額50百万円（うち社外取締役は30百万円）以内と決議いただいております。

役員区分毎の報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	業績連動報酬	退職慰労金	左記のうち、 非金銭報酬等	
取締役(監査等委員及び社 外取締役を除く)	73	67	-	6	-	4
社外取締役(監査等委員を 除く)	1	1	-	0	-	1
社外取締役(監査等委員)	15	14	-	1	-	4

(注) 1 報酬等の額には、使用人兼務役員の使用人分の給与は含まれておりません。

2 取締役(監査等委員及び社外取締役を除く)の員数は6名ですが、無支給者が2名いるため対象となる役員の員数と相違しております。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載を省略しております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、当社が保有する株式は全て子会社株式であり、それ以外の保有目的が純投資目的もしくは純投資目的以外の目的の株式は保有しておりません。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2023年3月1日から2024年2月29日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2023年3月1日から2024年2月29日まで)の財務諸表について、如水監査法人により監査を受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

前連結会計年度及び前事業年度	赤坂有限責任監査法人
当連結会計年度及び当事業年度	如水監査法人

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更についての確に対応することができる体制を整備するため、監査法人及び各種団体が主催する研修会等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,038	4,546
売掛金	258	1,063
商品	3,446	4,423
前渡金	2,106	2,115
未収消費税等	179	437
未収還付法人税等	0	38
その他	989	741
貸倒引当金	2,328	2,069
流動資産合計	8,690	11,296
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,226,640	1,226,648
車両運搬具(純額)	130	19
工具、器具及び備品(純額)	130	168
土地	21,965	22,212
使用権資産(純額)	12	113
建設仮勘定	2	2
有形固定資産合計	4,670	4,954
無形固定資産	54	43
投資その他の資産		
長期貸付金	1,040	951
敷金及び保証金	2,252	2,157
繰延税金資産	-	625
その他	769	916
貸倒引当金	1,505	1,587
投資その他の資産合計	2,557	3,063
固定資産合計	7,282	8,061
資産合計	15,973	19,358

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年 2月28日)	当連結会計年度 (2024年 2月29日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	228	626
1年内償還予定の社債	-	100
1年内返済予定の長期借入金	2 634	2 400
未払金	714	1,066
未払法人税等	69	24
訴訟損失引当金	156	-
その他	377	379
流動負債合計	2,181	2,596
固定負債		
社債	2 600	500
長期借入金	2 1,089	2 1,416
役員退職慰労引当金	506	532
退職給付に係る負債	83	89
資産除去債務	297	179
その他	37	66
固定負債合計	2,614	2,783
負債合計	4,796	5,380
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,481	100
資本剰余金	7,403	12,008
利益剰余金	3,507	2,415
株主資本合計	11,377	14,523
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	365	544
その他の包括利益累計額合計	365	544
新株予約権	14	-
非支配株主持分	150	-
純資産合計	11,177	13,978
負債純資産合計	15,973	19,358

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2023年 3月 1日 至 2024年 2月 29日)
売上高	3,708	16,283
売上原価	1,787	13,770
売上総利益	2,921	12,513
販売費及び一般管理費	2,478	11,788
営業利益又は営業損失()	1,864	725
営業外収益		
受取利息	11	7
為替差益	342	406
貸倒引当金戻入額	-	22
その他	89	87
営業外収益合計	444	524
営業外費用		
支払利息	115	19
訴訟関連費用	-	27
その他	34	5
営業外費用合計	150	52
経常利益又は経常損失()	1,571	1,197
特別利益		
子会社株式売却益	-	3,316
新株予約権戻入益	-	414
債務免除益	114	-
特別利益合計	114	1,331
特別損失		
減損損失	560	53
訴訟損失引当金繰入額	72	-
特別損失合計	132	3
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	1,589	2,524
法人税、住民税及び事業税	17	24
法人税等調整額	-	625
法人税等合計	17	600
当期純利益又は当期純損失()	1,606	3,125
非支配株主に帰属する当期純損失()	23	19
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失()	1,583	3,145

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
当期純利益又は当期純損失 ()	1,606	3,125
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	131	179
退職給付に係る調整額	1	1
その他の包括利益合計	1 129	1 180
包括利益	1,736	2,945
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,726	2,764
非支配株主に係る包括利益	10	180

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

（単位：百万円）

	株主資本				その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株 主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	為替換算調整 勘定	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	4,854	4,776	1,924	7,707	233	233	14	160	7,649
当期変動額									
新株の発行	2,626	2,626		5,253					5,253
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）			1,583	1,583					1,583
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					131	131	0	10	141
当期変動額合計	2,626	2,626	1,583	3,669	131	131	0	10	3,528
当期末残高	7,481	7,403	3,507	11,377	365	365	14	150	11,177

当連結会計年度（自 2023年3月1日 至 2024年2月29日）

（単位：百万円）

	株主資本				その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株 主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	為替換算調整 勘定	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	7,481	7,403	3,507	11,377	365	365	14	150	11,177
当期変動額									
減資	7,381	7,381		-					-
欠損填補		2,777	2,777	-					-
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,145	3,145					3,145
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					179	179	14	150	345
当期変動額合計	7,381	4,604	5,923	3,145	179	179	14	150	2,800
当期末残高	100	12,008	2,415	14,523	544	544	-	-	13,978

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	1,589	2,524
減価償却費	201	204
減損損失	60	3
債務免除益	114	-
子会社株式売却損益(は益)	-	1,316
新株予約権戻入益	-	14
貸倒引当金の増減額(は減少)	27	139
賞与引当金の増減額(は減少)	11	11
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	1	4
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	21	25
訴訟損失引当金の増減額(は減少)	50	164
受取利息及び受取配当金	11	7
支払利息	115	19
為替差損益(は益)	307	424
売上債権の増減額(は増加)	228	955
棚卸資産の増減額(は増加)	230	977
前払費用の増減額(は増加)	0	20
未収入金の増減額(は増加)	40	326
未収消費税等の増減額(は増加)	114	264
前渡金の増減額(は増加)	117	18
仕入債務の増減額(は減少)	179	395
未払金の増減額(は減少)	43	236
その他	185	564
小計	1,861	623
利息及び配当金の受取額	11	8
利息の支払額	125	19
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	37	55
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,012	689
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	121	108
定期預金の払戻による収入	397	182
固定資産の取得による支出	54	293
固定資産の売却による収入	12	-
貸付金の回収による収入	85	88
敷金及び保証金の差入による支出	440	94
敷金及び保証金の回収による収入	245	250
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	2,120
長期性預金の払戻による収入	70	-
その他	3	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	197	1,226
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300	700
長期借入金の返済による支出	700	654
社債の償還による支出	1,344	-
株式の発行による収入	5,173	-
リース債務の返済による支出	35	19
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,394	25
現金及び現金同等物に係る換算差額	50	11
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,529	573
現金及び現金同等物の期首残高	2,387	3,916
現金及び現金同等物の期末残高	1,3,916	1,4,490

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 . 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

主要な連結子会社の名称

株式会社ケイボックス

株式会社ケイティーシートックスフリー

当連結会計年度において、当社連結子会社であった株式会社シティープラス、及びその子会社である株式会社トップシティー免税店、株式会社ディーエフケイボックスは、当社連結子会社である株式会社ケイボックスが所有する株式会社シティープラスの株式をすべて売却したため、同社の株式譲渡日が2023年8月28日であるため、当連結会計年度は損益計算書のみ連結しており、影響の概要については、「注記事項（企業結合等関係）」に記載しております。

2 . 連結子会社の事業年度等に関する事項

全ての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

3 . 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産

商品・・・ 総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（使用権資産を除く）

当社は定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

車両運搬具 2年～6年

工具、器具及び備品 2年～20年

無形固定資産

定額法を採用しております。

使用権資産

在外連結子会社は、国際財務報告基準第16号「リース」（以下「IFRS第16号」という。）を適用しております。IFRS第16号により、リースの借手については、原則として全てのリース取引を使用権資産として計上しており、減価償却方法は定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社は内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。なお、数理計算上の差異及び過去勤務費用については、発生年度に全額を費用処理しております。

(5) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結会計年度末日のソウル外国為替仲介株式会社の基準為替レートにより円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結会計年度末日のソウル外国為替仲介株式会社の基準為替レートにより円貨に換算し、収益及び費用は、期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

小売事業

小売事業においては、主に中国をはじめ、韓国、東南アジア等の海外旅行者に対して食品・化粧品生活用品等のお土産品を販売しております。

このような商品の販売については、顧客に商品を引き渡した時点で収益を認識しております。

なお、商品販売のうち、当社及び連結子会社が代理人に該当すると判断したものについては、当該対価の額から第三者に対する支払額を差し引いた純額を収益として認識しております。

不動産事業

当社及び連結子会社が保有する事務所・住居等の賃貸資産を賃貸することにより賃貸料収入が生じます。賃貸料収入は、賃貸借契約期間に基づいて生じるものであり、当該期間に応じて収益認識しております。

リース事業

当社が保有するバス等の賃貸資産を賃貸することにより賃貸料収入が生じます。賃貸料収入は、賃貸借契約期間に基づいて生じるものであり、当該期間に応じて収益認識しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

(棚卸資産の評価)

1 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
商品	3,446	4,423
商品の簿価切下げ額	1,302	1,087

2 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

(1) 見積りの算出方法

当社グループは、棚卸資産の評価に関する会計基準等に従い、商品の評価にあたり正味売却価額が取得原価よりも下落している場合には簿価を切下げ、当該正味売却価額をもって連結貸借対照表価額としております。なお、一定期間を超えて保有している商品は、将来の販売見込等を反映して一定の基準により定期的に簿価の切下げを実施しています。

(2) 見積りの算定に用いた主要な仮定

営業循環過程から外れた商品で、一定期間を超えて保有している商品は、品目ごとに定期的に帳簿価額の切下げを実施しておりますが、切下げ率の設定については、見積りの不確実性を伴うものであり、主として過年度の販売実績や今後の需要予測に照らした販売可能性を用いて仮定を設定しております。

3 翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

今後、インバウンドビジネスを取り巻く市場動向の変化により、簿価切下げがさらに必要になった場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(固定資産の減損)

1 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
有形固定資産	4,670	4,954
減損損失	60	3

2 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

(1) 見積りの算出方法

当社グループは、固定資産の減損に係る会計基準等に従い、グルーピングを行っており、店舗等ごとに継続的な収支の把握を行っている状況を踏まえ、各店舗等をグルーピングの最小単位としております。固定資産のうち減損の兆候がある資産又は資産グループについて、当該資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。回収可能価額は、使用価値または正味売却可能価額のいずれか大きい額により測定しており、使用価値を算定する場合における割引前将来キャッシュ・フローは、各店舗等の事業計画を基礎としております。

(2) 見積りの算定に用いた主要な仮定

減損損失の認識の判定に使用される将来キャッシュ・フローは、取締役会にて承認された当社グループの事業計画を基礎としており、当該事業計画は、インバウンドビジネスの市場予測、過去の原価率趨勢等の仮定を使用しております。

この将来キャッシュ・フローの算定に用いた仮定は、入手可能な情報に基づいた最善の見積りであると判断しております。

また、正味売却可能価額の見積りにあたっては、主として不動産鑑定評価をもとに総合的に判断しております。

3 翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

今後、インバウンドビジネスを取り巻く市場動向及び不動産市況の動向によっては、店舗等の収益性悪化や不動産の時価下落による、減損処理がさらに必要になった場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(繰延税金資産の評価)

1 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
繰延税金資産	-	625

2 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

(1) 見積りの算出方法

当社グループは、繰延税金資産について、繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針（企業会計基準適用指針第26号）に定める会社分類に基づき、当連結会計年度末における将来減算一時差異及び税務上の繰越欠損金に対して、将来の税金負担額を軽減することが出来る範囲で計上しております。

(2) 見積りの算定に用いた主要な仮定

繰延税金資産の回収可能性は、取締役会にて承認された当社グループの事業計画を基礎として見積っておりますが、当該事業計画は、インバウンドビジネスの市場予測、過去の原価率趨勢等一定の仮定のもとで判断しております。

3 翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

今後、インバウンドビジネスを取り巻く市場動向の変化により、回収可能性の見直しが必要となった場合には、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

(1) 前連結会計年度において、「流動資産」の「その他」に含めて表示しておりました「未収還付法人税等」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「未収還付法人税等」0百万円、「その他」989百万円として組み替えております。

(2) 前連結会計年度において、区分掲記していましたが「流動負債」の「リース債務」、「賞与引当金」、及び「固定負債」の「リース債務」は重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しています。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に計上していた「リース債務」24百万円、「賞与引当金」11百万円、「その他」341百万円は、「流動負債」の「その他」377百万円に、「固定負債」に計上していた「リース債務」16百万円、「その他」20百万円は「固定負債」の「その他」37百万円にそれぞれ組み替えています。

(連結損益計算書)

(1) 前連結会計年度において、区分掲記しておりました「営業外収益」の「雇用調整助成金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「雇用調整助成金」70百万円、「その他」18百万円は、「その他」89百万円として組み替えております。

(2) 前連結会計年度において、区分掲記しておりました「営業外費用」の「休止固定資産減価償却費」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」に表示していた「休止固定資産減価償却費」14百万円、「その他」20百万円は、「その他」34百万円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、区分掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「雇用調整助成金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。これに伴い「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「小計」欄以下において区分掲記しておりました「雇用調整助成金の受取額」は「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「雇用調整助成金」70百万円、「雇用調整助成金の受取額」70百万円は「その他」185百万円として組み替えるとともに、「小計」1,932百万円を1,861百万円に変更しております。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
有形固定資産の減価償却累計額	3,876百万円	3,656百万円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
建物及び構築物	0百万円	0百万円
土地	299	299
合計	299	299

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
1年内返済予定の長期借入金	424百万円	100百万円
社債	100	-
長期借入金	110	243
合計	635	343

(連結損益計算書関係)

1 期末棚卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
棚卸資産帳簿価額切下額	575百万円	104百万円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
販売促進費	1,188百万円	7,815百万円
給与	527	928
地代家賃	1,381	1,427
賞与引当金繰入額	11	-
退職給付費用	6	14
役員退職慰労引当金繰入額	21	30
貸倒引当金繰入額	80	126
減価償却費	156	153

3 子会社株式売却益

当連結会計年度において、当社連結子会社であった株式会社シティープラス、及びその子会社である株式会社トップシティー免税店、株式会社ディーエフケイボックスは、当社連結子会社である株式会社ケイボックスが所有する株式会社シティープラス株式をすべて売却したことに伴い、売却益を計上しております。

4 新株予約権戻入益

当連結会計年度において、行使期限の到来により未行使の新株予約権が失効したことによる戻入を新株予約権戻入益として特別利益に計上しております。

5 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

場所 (会社)	用途	種類	金額 (百万円)
韓国・仁川広域市 (株シティープラス)	倉庫	建物及び構築物	17
		使用権資産	42

当社グループは、店舗を基本単位としてグルーピングを行っております。収益性が低下し投資額の回収が見込めなくなった店舗について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として60百万円を特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額又は使用価値により算定しております。

正味売却価額は固定資産税評価額により評価しております。また、使用価値の算出にあたっては、将来キャッシュ・フローに基づき算定しておりますが、割引前将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、割引率の記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2023年3月1日 至 2024年2月29日）

場所 (会社)	用途	種類	金額 (百万円)
日本・鹿児島市 (株JTC)	店舗	建物及び構築物	3

当社グループは、店舗を基本単位としてグルーピングを行っております。収益性が低下し投資額の回収が見込めなくなった店舗について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として3百万円を特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額又は使用価値により算定しております。

正味売却価額は固定資産税評価額により評価しております。また、使用価値の算出にあたっては、将来キャッシュ・フローに基づき算定しておりますが、割引前将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、割引率の記載を省略しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
為替換算調整勘定:	百万円	百万円
当期発生額	131	179
組替調整額	-	-
為替換算調整勘定	131	179
退職給付に係る調整額:		
当期発生額	1	1
組替調整額	-	-
退職給付に係る調整額	1	1
その他の包括利益合計	129	180

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	35,005,517	15,283,106	-	50,288,623
合計	35,005,517	15,283,106	-	50,288,623
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

(注) 普通株式の発行済株式数の増加は、第三者割当による募集株式の発行 15,087,507株及び新株予約権の行使による増加195,599株であります。

2. 新株予約権等に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプション としての新株予約権	-	-	-	-	-	14
合計		-	-	-	-	-	14

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項なし。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項なし。

当連結会計年度（自 2023年3月1日 至 2024年2月29日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度増加 株式数（株）	当連結会計年度減少 株式数（株）	当連結会計年度末株 式数（株）
発行済株式				
普通株式	50,288,623	-	-	50,288,623
合計	50,288,623	-	-	50,288,623
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 新株予約権等に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （百万円）
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 （親会社）	ストック・オプション としての新株予約権	-	-	-	-	-	-
	合計	-	-	-	-	-	-

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項なし。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項なし。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）	当連結会計年度 （自 2023年3月1日 至 2024年2月29日）
現金及び預金勘定	4,038百万円	4,546百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	122	56
現金及び現金同等物	3,916	4,490

2 当連結会計年度に株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の売却により、株式会社シティープラス、株式会社トップシティー免税店、株式会社ディーエフケイボックスが連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに株式等の売却価額と売却による収入は次のとおりであります。

流動資産	414百万円
固定資産	373
流動負債	208
固定負債	128
その他	441
子会社株式売却益	1,316
株式の売却価額	1,325
現金及び現金同等物	121
差引：売却による収入	1,204

(リース取引関係)

(借主側)

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
1年以内	1,081	1,081
1年超	13,481	12,483
合計	14,563	13,565

(注) 上記未経過リース料には、規定損害金に相当する額を含めております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入や社債発行)を調達しております。資金調達については、金融機関等との契約に基づく借入及び社債の発行等により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

売掛金、長期貸付金及び差入保証金は、取引相手の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、経理規程に従い、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の経理規程に準じて、同様の管理を行っております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建のものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、恒常的に同じ外貨建の売掛金残高の範囲内にあります。

借入金及び社債は、主に当社グループの運転資金及び設備投資を目的にしたものであり、借入金の一部は外貨建債務であり為替の変動リスクに晒されております。また、社債の償還日は最長で決算日後2年11ヶ月であります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。現金は注記を省略しており、「預金」「売掛金」「買掛金」「未払金」「未払法人税等」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

前連結会計年度（2023年2月28日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 長期貸付金(1)	1,139		
貸倒引当金(2)	17		
	1,122	1,122	-
(2) 敷金及び保証金	2,660		
貸倒引当金(2)	789		
	1,870	1,750	119
資産計	2,992	2,872	119
(1) 社債	600	599	0
(2) 長期借入金(3)	1,724	1,704	20
負債計	2,324	2,303	21

- (1) 1年以内に回収予定のものを含んでおります。
(2) 個別に計上している貸倒引当金を控除しております。
(3) 1年以内に返済予定のものを含んでおります。

当連結会計年度（2024年2月29日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 長期貸付金(1)	1,034		
貸倒引当金(2)	-		
	1,034	1,034	-
(2) 敷金及び保証金	2,157		
貸倒引当金()	743		
	1,413	1,289	124
資産計	2,448	2,324	124
(1) 社債(3)	600	599	0
(2) 長期借入金(3)	1,816	1,795	20
負債計	2,416	2,395	20

- (1) 1年以内に回収予定のものを含んでおります。
(2) 個別に計上している貸倒引当金を控除しております。
(3) 1年以内に返済予定のものを含んでおります。

(注) 1 . 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (2023年 2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	4,038	-	-	-
売掛金	258	-	-	-
長期貸付金	99	346	403	289
合計	4,395	346	403	289

当連結会計年度 (2024年 2月29日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	4,546	-	-	-
売掛金	1,063	-	-	-
長期貸付金	82	338	405	207
合計	5,692	338	405	207

(注) 2 . 社債、長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度 (2023年 2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	-	100	-	500	-	-
長期借入金	634	260	47	24	531	226
合計	634	360	47	524	531	226

当連結会計年度 (2024年 2月29日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	100	-	500	-	-	-
長期借入金	400	227	144	144	697	201
合計	500	227	644	144	697	201

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1インプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2023年2月28日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期貸付金	-	1,122	-	1,122
資産計	-	1,122	-	1,122

当連結会計年度（2024年2月29日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期貸付金	-	941	92	1,034
資産計	-	941	92	1,034

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品
前連結会計年度(2023年2月28日)

	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金及び保証金	-	934	816	1,750
資産計	-	934	816	1,750
社債	-	99	500	599
長期借入金(1年内返済も含む)	-	1,704	-	1,704
負債計	-	1,803	500	2,303

当連結会計年度(2024年2月29日)

	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金及び保証金	-	930	360	1,289
資産計	-	930	360	1,289
社債	-	99	500	599
長期借入金(1年内返済も含む)	-	1,795	-	1,795
負債計	-	1,895	500	2,395

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

長期貸付金(1年内に回収予定のもの含む)

長期貸付金は、主に建設協力金であり、その時価については、回収予定額を契約期間に対する国債の利回り等適切な指標に基づく利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

貸倒懸念債権については、財務内容等を勘案し担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における中間連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似していることから、当該価額を時価としており、レベル3の時価に分類しております。

敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価については、将来キャッシュ・フローの合計額を国債の利回りを基礎とした合理的な割引率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。なお、貸倒懸念債権については、財務内容等を勘案し担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似していることから、当該価額を時価としており、レベル3の時価に分類しております。

社債

社債の時価については、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。なお、一部の転換社債の時価については、元利金の合計額と、当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しております。信用リスクは市場において観察不能であるため、レベル3の時価に分類しております。

長期借入金(1年内に返済予定のもの含む)

長期借入金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、退職金規程に基づく退職一時金制度及び確定拠出制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
退職給付債務の期首残高	81百万円	83百万円
勤務費用	13	15
利息費用	0	1
数理計算上の差異の発生額	4	2
退職給付の支払額	6	13
退職給付債務の期末残高	83	89

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
非積立型制度の退職給付債務	83百万円	89百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	83	89
退職給付に係る負債	83	89
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	83	89

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
勤務費用	13百万円	15百万円
利息費用	0	1
数理計算上の差異の発生額	0	2
確定給付制度に係る退職給付費用	13	18

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表しております。)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
割引率	0.8%	0.8%

3. 確定拠出制度

一部の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度11百万円、当連結会計年度 - 百万円です。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
販売費及び一般管理費	0	-

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
新株予約権戻入益	-	14

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役2名 当社の使用人33名	子会社の使用人1名	当社の使用人1名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 92,500株	普通株式 5,000株	普通株式 765,817株
付与日	2018年6月16日	2018年7月14日	2023年6月30日
権利確定条件	新株予約権の行使時においても、当社又は当社子会社の取締役・監査役及び従業員(執行役員を含む。)の地位にあることを要す。ただし、当社の取締役・監査役を任期満了で退任した場合、又は定年退職その他正当な理由がある場合において、当社の取締役会が特に認める場合はこの限りではない。	新株予約権の行使時においても、当社又は当社子会社の取締役・監査役及び従業員(執行役員を含む。)の地位にあることを要す。ただし、当社の取締役・監査役を任期満了で退任した場合、又は定年退職その他正当な理由がある場合において、当社の取締役会が特に認める場合はこの限りではない。	新株予約権の行使時においても、当社又は当社子会社の取締役・監査役及び従業員(執行役員を含む。)の地位にあることを要す。ただし、当社の取締役・監査役を任期満了で退任した場合、又は定年退職その他正当な理由がある場合において、当社の取締役会が特に認める場合はこの限りではない。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2020年6月16日 至 2023年6月15日	自 2020年7月14日 至 2023年7月13日	自 2023年6月30日 至 2028年6月29日

(注) 1 株式数に換算して記載しております。なお、2017年10月1日付株式分割(普通株式1株につき5株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

2 第2回新株予約権は2023年6月15日、第3回新株予約権は2023年7月13日をもって権利行使期間が終了しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（2024年2月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権
権利確定前（株）			
前連結会計年度末	-	-	-
付与	-	-	-
失効	-	-	-
権利確定	-	-	-
未確定残	-	-	-
権利確定後（株）			
前連結会計年度末	24,500	5,000	-
権利確定	-	-	765,817
権利行使	-	-	-
失効	24,500	5,000	765,817
未行使残	-	-	-

（注） 2017年10月1日付株式分割（普通株式1株につき5株の割合）による分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権
権利行使価格（KRW）	-	-	-
行使時平均株価（KRW）	-	-	-
付与日における公正な評価単価（KRW）	-	-	-

（注） 2017年10月1日付株式分割（普通株式1株につき5株の割合）による分割後の価格に換算して記載しております。

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

該当事項はありません。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

5. ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の

合計額及び当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

当連結会計年度末における本源的価値の合計額 - 千円

当連結会計年度に権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額 - 千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
繰延税金資産		
未払事業税	15百万円	- 百万円
貸倒引当金	1,107	1,151
棚卸資産	416	372
退職給付引当金	34	28
役員退職慰労引当金	154	182
訴訟損失引当金	32	-
減価償却超過額	14	11
減損損失	603	498
資産除去債務	54	61
敷金(資産除去債務)	38	42
繰越欠損金	3,262	3,272
その他	66	182
繰延税金資産小計	5,801	5,805
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	3,262	2,619
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	2,430	2,348
評価性引当額(注1)	5,692	4,967
繰延税金資産合計	108	837
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	37	38
その他	71	172
繰延税金負債合計	108	212
繰延税金資産の純額(は負債の純額)	-	625

(注1) 繰延税金資産から控除された額(評価性引当額)に重要な変動が生じており、その内容は当連結会計年度において当社及び連結子会社における税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額の増加に伴うものであります。

(注2) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2023年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
税務上の繰越欠損金(2)	-	-	3,262	3,262
評価性引当額	-	-	3,262	3,262
繰延税金資産	-	-	-	-

(2) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度(2024年2月29日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
税務上の繰越欠損金(2)	-	-	3,272	3,272
評価性引当額	-	-	2,619	2,619
繰延税金資産	-	-	653	653

(2) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因
となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
法定実効税率 (調整)	-	34.3%
住民税均等割	-	0.9
評価性引当額の増減	-	60.7
その他	-	1.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	23.8

(注) 前連結会計年度は、税金等調整前当期純損失であるため、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

当連結会計年度(自2023年3月1日 至2024年2月29日)

事業分離

当社は、2023年8月1日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社ケイボックスが有する株式会社シティ・プラスの経営権及び発行済全株式を譲渡することを決議しており、株式会社ケイボックスは、同日付で株式譲渡契約を締結し、2023年8月28日に株式を譲渡しております。

(1) 事業分離の概要

分離先の名称

株式会社ディーワン及び株式会社ファッションイーエヌジー

分離した事業の内容

名称 株式会社シティ・プラス

事業内容 小売事業

事業分離を行った主な理由

当社の韓国での事業再構築とその資金調達のために、韓国事業におけるホールディングス機能を持つ当社連結子会社の株式会社ケイボックスが保有する株式会社シティ・プラスの全株式を譲渡することとしました。

事業分離日

2023年8月28日

法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

(2) 実施した会計処理の概要

移転損益の金額

子会社株式売却益 1,316百万円

移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額及びその主な内訳

流動資産 414百万円

固定資産 373百万円

資産合計 788百万円

流動負債 208百万円

固定負債 128百万円

負債合計 337百万円

会計処理

当該株式会社の連結上の帳簿価額と売却額との差額を子会社株式売却益として特別利益に計上してあります。

(3) 分離した事業が含まれていた報告セグメント

当社グループは単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

(4) 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の影響額

売上高 240百万円

営業損失 73百万円

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1 当該資産除去債務の概要

営業店舗用建物等の賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2 当該資産除去債務の金額の算定方法

物件ごとに使用見込期間を見積り、対応する国債の流通利回りで割り引いて、資産除去債務の金額を計算しております。

3 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
期首残高	289百万円	297百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	21	-
時の経過による調整額	0	0
履行による減少額	23	-
連結子会社の売却による減少額	-	118
その他	8	-
期末残高	297	179

(賃貸等不動産関係)

当社の子会社は、韓国済州島において、賃貸の用に供している不動産を有しております。

前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は27百万円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。

当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は 8百万円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

		前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	2,369百万円	2,523百万円
	期中増減額	153	202
	期末残高	2,523	2,725
期末時価		2,434	2,929

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度及び前期連結会計年度の時価は、不動産鑑定士による鑑定評価等に基づいて算出しております。

(収益認識関係)

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	
	小売事業	
小売上高		3,475
その他売上高		233
顧客との契約から生じる収益		3,708
その他収益		-
外部顧客への売上高		3,708

(注)「その他売上高」は、リース収入・不動産賃貸収入に基づくものであります。

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	
	小売事業	
小売上高		15,957
その他売上高		326
顧客との契約から生じる収益		16,283
その他収益		-
外部顧客への売上高		16,283

(注)「その他売上高」は、リース収入・不動産賃貸収入に基づくものであります。

(2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

3. 会計方針に関する事項(6)重要な収益及び費用の計上基準に記載のとおりです。

(3) 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

契約資産及び契約負債の残高等

当社グループの契約資産及び契約負債については、残高はありません。

また過去の期間に充足(又は部分的充足)した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益はありません。

残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、当初に予想される契約期間が1年を超える契約がないため、実務上の便法を適用し、残存履行義務に関する情報の記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、食品・化粧品・生活用品等のお土産品を販売する小売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、食品・化粧品・生活用品等のお土産品を販売する小売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	韓国	合計
3,197	511	3,708

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	韓国	合計
2,100	2,570	4,670

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2023年3月1日 至 2024年2月29日）

1．製品及びサービスごとの情報

当社グループは、食品・化粧品・生活用品等のお土産品を販売する小売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	韓国	合計
15,976	307	16,283

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	韓国	合計
2,213	2,741	4,954

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2023年3月1日 至 2024年2月29日）

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2023年3月1日 至 2024年2月29日）

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2023年 3月 1日 至 2024年 2月 29日)
1 株当たり純資産額	218.98円	277.97円
1 株当たり当期純利益又は 1 株当たり当期純損失 ()	41.24円	62.55円
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益	-	61.15円

- (注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、1 株当たり当期純損失であり、また希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1 株当たり当期純利益又は 1 株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2023年 3月 1日 至 2024年 2月 29日)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失		
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 () (百万円)	1,583	3,145
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失 () (百万円)	1,583	3,145
普通株式の期中平均株式数 (千株)	38,399	50,288
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (百万円)	-	3
(うち支払利息 (税額相当額控除後) (百万円))	-	3
普通株式増加数 (千株)	-	1,215
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	第 2 回新株予約権 24,500 第 3 回新株予約権 5,000 転換社債 1,222,493	-

(重要な後発事象)

1. 第5回新株予約権(ストック・オプション)の発行について

当社は、2024年4月8日開催の取締役会において、新株予約権を発行することを決議いたしました。概要は以下のとおりです。

(1) 銘柄	株式会社 J T C 第5回新株予約権
(2) 発行数	184,823個
(3) 発行価格	284円
(4) 発行価額の総額	52,489,732円
(5) 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数	新株予約権 1個あたり当社普通株式 1株
(6) 行使価額	541円
(7) 行使期間	2026年4月9日から3年間
(8) 割当先の人数及びその内訳	当社の使用人 34名 184,823個(184,823株)
(9) 割当日	2024年4月23日

2. 子会社株式の全株式譲渡

2024年4月19日開催の取締役会において、連結子会社である株式会社ケイボックスが株式51%保有する連結子会社である株式会社ケイティ シータックスフリーの全株式を譲渡することを決議し、2024年4月24日に株式譲渡が完了しました。

そのため、2025年2月期連結会計年度の期首より株式会社ケイティ シータックスフリーは当社の連結子会社から除外されることとなります。

(1) 株式譲渡の理由	グループ経営効率化のため。
(2) 株式譲渡の相手先	張 克倫(株式会社ケイティ シータックスフリーの2大株主)
(3) 株式の譲渡日	2024年4月24日

(4) 当該子会社の概要

名称：株式会社ケイティ シータックスフリー
事業の内容：化粧品販売事業

(5) 譲渡する株式数、譲渡価額、譲渡損益及び譲渡後の持ち分比率

譲渡株式数：122,500株
譲渡価格：株式譲渡価額：500百万ウォン
譲渡損益：業績への影響は軽微であります。
譲渡後の持ち分比率：0%

(6) その他重要な特約等

譲渡代金の支払方法は締結時に200百万ウォン、残金は2025年12月31日までに300百万ウォンを払うこととされております。

株式会社ケイティ シータックスフリーが張氏に対して有する債権約585百万ウォン及び上記の残金300百万ウォン等の債権について、張氏の有する株式等の資産に対して、担保(質権)設定をおこなっております。

上記の張氏に対する債権及び株式会社ケイボックスが有する株式会社ケイティ シータックスフリーに対する債権の実行権について、上記の残金支払日まで取り立てを猶予し、残金支払完納により、これ(実行権)を株式会社ケイティ シータックスフリーに譲渡することとしております。

なお、当該債務免除による業績への影響は軽微であります。

3. 第6回新株予約権(ストック・オプション)の発行について

当社は、2024年5月10日開催の取締役会において、新株予約権を発行することを決議いたしました。概要は以下のとおりです。

(1) 銘柄	株式会社 J T C 第6回新株予約権
(2) 発行数	225,231個
(3) 発行価格	17円
(4) 発行価額の総額	3,828,927円
(5) 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数	新株予約権 1個あたり当社普通株式 1株
(6) 行使価額	628円
(7) 行使期間	2024年8月30日から5年間
(8) 割当先の人数及びその内訳	当社の取締役 2名 225,231個(225,231株)
(9) 割当日	2024年8月30日

4. 第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型新株予約権付社債の権利行使による増資

2024年4月30日に第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型新株予約権付社債の行使が全額行われており、当該無記名式利権付無保証私募転換社債型新株予約権付社債の行使により発行した株式の概要は以下のとおりであります。

- (1) 行使新株予約権個数25個
- (2) 資本金の増加額250百万円
- (3) 資本剰余金の増加額250百万円
- (4) 増加した株式の種類及び株式数 普通株1,457,725株

また、当該事象により、当社が中小企業者等の法人税率の特例制度の適用対象から外れることなどのため、将来の課税所得の見積りの見直しが必要となりました。

その結果、翌連結会計年度において、税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額383百万円の増加により繰延税金資産を同額取り崩す可能性があります。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率(%)	担保	償還期限
(株) J T C	第7回社債 (注) 1	2019年9月25日	100	100 (100)	0.3	あり	2024年9月25日
(株) J T C	第2回無記名式利権付無保証 私募転換社債型新株予約権 付社債(注) 2	2022年1月31日	500	500	1.0	なし	2027年1月30日
合計	-	-	600 (-)	600 (100)	-	-	-

(注) 1 「当期末残高」欄の()書きは、1年以内の償還予定額であります。

2 転換社債型新株予約権付社債に関する記載は次のとおりであります。

銘柄	第2回無記名式利権付無保証私募転換 社債型新株予約権付社債
発行すべき株式の内容	普通株式
新株予約権の発行価額	無償
株式の発行価格	373円
発行価額の総額	500百万円
新株予約権の行使により発行 した株式の発行価額の総額	-
新株予約権の付与割合	100%
新株予約権の行使期間	自 2023年1月31日 至 2026年12月30日

(注) なお、新株予約権を行使しようとする者の請求があるときは、その新株予約権が付せられた社債の全額の償還に代えて、新株予約権の行使に際して払込をなすべき額の全額の払込があったものとします。また、新株予約権が行使されたときには、当該請求があったものとみなします。

3 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
100	-	500	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	634	400	0.5	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,089	1,416	2.1	2025年～2038年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	1,724	1,816	-	-

(注) 1 平均利率は、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	227	144	144	697

【資産除去債務明細表】

	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
不動産賃貸借契約に基づく原状回復義務	297	0	118	179

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,730	4,424
売掛金	253	1,063
商品	3,376	4,423
前渡金	1,551	1,537
未収還付法人税等	-	37
未収消費税等	168	436
その他	1,626	1,444
貸倒引当金	1,758	1,491
流動資産合計	7,949	10,875
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,1564	2,1550
構築物	16	16
車両運搬具	28	7
工具、器具及び備品	29	68
土地	2,460	2,568
建設仮勘定	-	2
有形固定資産合計	2,100	2,213
無形固定資産		
無形固定資産合計	43	43
投資その他の資産		
長期貸付金	1,040	951
関係会社長期貸付金	4,638	3,714
敷金及び保証金	1,990	2,042
繰延税金資産	-	625
その他	769	916
貸倒引当金	3,657	2,422
投資その他の資産合計	4,781	5,827
固定資産合計	6,925	8,085
資産合計	14,874	18,960

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	178	609
1年内償還予定の社債	-	100
1年内返済予定の長期借入金	2,634	2,400
未払金	703	953
未払法人税等	69	24
その他	315	480
流動負債合計	1,901	2,568
固定負債		
社債	2,600	500
長期借入金	2,583	2,863
退職給付引当金	71	76
役員退職慰労引当金	506	532
資産除去債務	178	179
固定負債合計	1,939	2,151
負債合計	3,841	4,719
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,481	100
資本剰余金		
資本準備金	7,403	7,403
その他資本剰余金	-	4,604
資本剰余金合計	7,403	12,008
利益剰余金		
利益準備金	34	34
その他利益剰余金		
別途積立金	500	500
繰越利益剰余金	4,401	1,598
利益剰余金合計	3,867	2,132
株主資本合計	11,018	14,240
新株予約権	14	-
純資産合計	11,033	14,240
負債純資産合計	14,874	18,960

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
売上高	3,197	15,976
売上原価	639	3,619
売上総利益	2,558	12,357
販売費及び一般管理費	1, 2 4,244	1, 2 11,457
営業利益又は営業損失 ()	1,685	899
営業外収益		
受取利息	5	4
為替差益	213	391
その他	83	18
営業外収益合計	302	414
営業外費用		
支払利息	22	18
関係会社貸倒引当金繰入額	303	-
その他	19	4
営業外費用合計	344	22
経常利益又は経常損失 ()	1,727	1,291
特別利益		
関係会社貸倒引当金戻入益	-	3 1,337
新株予約権戻入益	-	4 14
特別利益合計	-	1,351
特別損失		
減損損失	-	3
貸倒損失	16	18
特別損失合計	16	21
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 ()	1,744	2,621
法人税、住民税及び事業税	17	24
法人税等調整額	-	625
法人税等合計	17	600
当期純利益又は当期純損失 ()	1,762	3,222

(売上原価明細書)

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)		当事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
商品売上原価	(注)				
商品期首棚卸高		4,936		4,569	
当期商品仕入高		699		4,497	
合計		5,635		9,067	
商品期末棚卸高		4,569		5,511	
商品評価損		575		104	
商品売上原価計		491	76.9	3,451	95.3
賃貸原価		131	20.5	165	4.6
その他原価		16	2.6	1	0.1
当期売上原価	639	100.0	3,619	100.0	

(注) 主な内訳は減価償却費であります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	4,854	4,776	-	4,776	34	500	2,638	2,104
当期変動額								
新株の発行	2,626	2,626		2,626				-
当期純損失（ ）							1,762	1,762
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	2,626	2,626		2,626	-	-	1,762	1,762
当期末残高	7,481	7,403	-	7,403	34	500	4,401	3,867

	株主資本	新株予約権	純資産合計
	株主資本合計		
当期首残高	7,527	14	7,541
当期変動額			
新株の発行	5,253		5,253
当期純損失（ ）	1,762		1,762
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		0	0
当期変動額合計	3,491	0	3,491
当期末残高	11,018	14	11,033

当事業年度（自 2023年 3月 1日 至 2024年 2月29日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	7,481	7,403	-	7,403	34	500	4,401	3,867
当期変動額								
減資	7,381		7,381	7,381				
欠損填補			2,777	2,777			2,777	2,777
当期純利益							3,222	3,222
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	7,381	-	4,604	4,604	-	-	5,999	5,999
当期末残高	100	7,403	4,604	12,008	34	500	1,598	2,132

	株主資本	新株予約権	純資産合計
	株主資本合計		
当期首残高	11,018	14	11,033
当期変動額			
減資	-		-
欠損填補	-		-
当期純利益	3,222		3,222
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	14	14
当期変動額合計	3,222	14	3,207
当期末残高	14,240	-	14,240

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1 . 資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品・・・総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

2 . 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3年～50年
構築物	10年～40年
車両運搬具	2年～6年
工具、器具及び備品	2年～20年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

3 . 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、当事業年度末日のソウル外国為替仲介株式会社の基準為替レートにより円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4 . 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職金規程並びに当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。数理計算上の差異及び過去勤務費用については、発生年度に全額を費用処理しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

5 . 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(1) 小売事業

小売事業においては、主に中国をはじめ、韓国、東南アジア等の海外旅行者に対して食品・化粧品・生活用品等のお土産品を販売しております。このような商品の販売については、顧客に商品を引き渡した時点で収益を認識しております。なお、商品販売のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、当該対価の額から第三者に対する支払額を差し引いた純額を収益として認識しております。

(2) 不動産事業

当社が保有する事務所・住居等の賃貸資産を賃貸することにより賃貸料収入が生じます。賃貸料収入は、賃貸借契約期間に基づいて生じるものであり、当該期間に応じて収益認識しております。

(3) リース事業

当社が保有するバス等の賃貸資産を賃貸することにより賃貸料収入が生じます。賃貸料収入は、賃貸借契約期間に基づいて生じるものであり、当該期間に応じて収益認識しております。

(重要な会計上の見積り)

(棚卸資産の評価)

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前事業年度	当事業年度
商品	3,376	4,423
商品の簿価切下げ額	1,192	1,087

(2) その他の情報

連結財務諸表の「注記事項(重要な会計上の見積り)(棚卸資産の評価)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(固定資産の減損)

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前事業年度	当事業年度
有形固定資産	2,100	2,213
減損損失	-	3

(2) その他の情報

連結財務諸表の「注記事項(重要な会計上の見積り)(固定資産の減損)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(繰延税金資産の回収可能性)

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前事業年度	当事業年度
繰延税金資産	-	625

(2) その他の情報

連結財務諸表の「注記事項(重要な会計上の見積り)(繰延税金資産の回収可能性)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(関係会社長期貸付金に対する貸倒引当金)

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前事業年度	当事業年度
関係会社長期貸付金	4,638	3,714
関係会社未収利息	69	57
貸倒引当金	2,265	928

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

見積りの算出方法

当社は、関係会社に対する貸付金等の評価に当たって、金融商品に関する会計基準等に従い、関係会社の財政状態及び経営成績を考慮し、期末日時点の対象会社の支払能力及び債務超過の額を総合的に勘案したうえで、当該回収不能見込額を貸倒引当金として計上しております。

見積りの算定に用いた主要な仮定

当該回収不能見込額の見積りにあたっては、主として関係会社の所有する不動産鑑定評価をもとに回収可能価額を考慮したうえで、支払能力を総合的に判断しております。

(3) 翌事業年度の財務諸表に与える影響

今後、不動産市況の動向によっては、不動産の時価下落による回収可能価額の見直しが必要となった場合、当社の業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

(1) 前事業年度において区分掲記しておりました「無形固定資産」の「ソフトウェア」、「その他」は、金額の重要性が乏しくなったため、当事業年度においては「無形固定資産」として一括表示しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「無形固定資産」に表示していた「ソフトウェア」160万円、「その他」270万円を、「無形固定資産」430万円として組み替えております。

(2) 前事業年度において区分掲記しておりました「流動負債」の「賞与引当金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において「流動負債」に表示していた「賞与引当金」110万円、「その他」304万円は、「その他」315万円に組み替えております。

(損益計算書)

(1) 前事業年度において区分掲記しておりました「営業外収益」の「雇用調整助成金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「雇用調整助成金」70万円、「その他」120万円は、「その他」830万円として組み替えております。

(2) 前事業年度において区分掲記しておりました「営業外費用」の「休止固定資産減価償却費」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」に表示していた「休止固定資産減価償却費」140万円、「その他」400万円は、「その他」190万円として組み替えております。

(会計上の見積りの変更)

(子会社に対する債権の評価)

当社連結子会社である株式会社ケイボックスに対する貸倒懸念債権について、韓国グループとの関係を整理する中で新たに入手した情報に基づき回収可能性の見直しを行った結果、貸倒引当金は従来の方法に比べ509百万円減少しております。

これにより、当事業年度の経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ509百万円増加しております。今後、不動産市況の動向によっては、不動産の時価下落による回収可能価額の見直しが必要となった場合、当社の業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
短期金銭債権	69百万円	56百万円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
建物及び構築物	0百万円	0百万円
土地	299	299
合計	299	299

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
1年内返済予定の長期借入金	424百万円	100百万円
社債	100	-
長期借入金	110	243
合計	635	343

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
営業取引以外の取引による取引高	2百万円	2百万円

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度36.4%、当事業年度68.6%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度63.6%、当事業年度31.4%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
給与	416百万円	845百万円
販売促進費	1,188	7,815
地代家賃	1,383	1,429
賞与引当金繰入額	11	-
退職給付引当金繰入額	6	14
役員退職慰労引当金繰入額	21	30
貸倒引当金繰入額	82	126
減価償却費	137	142

3 関係会社貸倒引当金戻入益

当社は、連結子会社である株式会社ケイボックスの貸付金に関して回収可能性を見直した結果、前期に計上した貸倒引当金を戻し入れ、それに伴う関係会社貸倒引当金戻入益を特別利益として計上しております。

4 新株予約権戻入益

当事業年度において、行使期限の到来により未行使の新株予約権が失効したことによる戻入を新株予約権戻入益として特別利益に計上しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2023年 2 月28日)	当事業年度 (2024年 2 月29日)
繰延税金資産		
未払事業税	15百万円	- 百万円
貸倒引当金	1,651	1,341
棚卸資産	363	372
退職給付引当金	21	26
役員退職慰労引当金	154	182
減価償却超過額	14	11
減損損失	459	493
関係会社株式	752	845
資産除去債務	54	61
敷金 (資産除去債務)	38	42
繰越欠損金	2,571	2,644
その他	40	58
繰延税金資産小計	6,139	6,080
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	2,571	1,991
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	3,459	3,252
評価性引当額	6,031	5,243
繰延税金資産合計	108	837
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	37	38
建設協力金	11	14
為替差損益	59	146
その他	-	12
繰延税金負債合計	108	212
繰延税金資産の純額 (は負債の純額)	-	625

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2023年 2 月28日)	当事業年度 (2024年 2 月29日)
法定実効税率	-	34.3%
(調整)	-	
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	0.1
住民税均等割	-	0.9
評価性引当額の増減	-	58.4
その他	-	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	22.9

(注) 前事業年度は、税引前当期純損失であるため、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

連結財務諸表「注記事項 (企業結合等関係) 」に記載しているため、注記を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

連結財務諸表の注記事項(重要な後発事象)「1.第5回新株予約権(ストック・オプション)の発行について」、「3.第6回新株予約権(ストック・オプション)」、「4.第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型新株予約権付社債の権利行使による増資」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

該当事項はありません。

【有形固定資産等明細表】

(単位:百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,564	99	4 (3)	109	1,550	1,049
	構築物	16	1	0 (0)	2	16	33
	車両運搬具	28	-	0	21	7	1,808
	工具、器具及び備品	29	64	0	24	68	611
	土地	460	108	-	-	568	-
	建設仮勘定	-	2	-	-	2	-
	計	2,100	275	4 (3)	157	2,213	3,502
無形固定資産	その他	43	6	-	6	43	143
	計	43	6	-	6	43	143

注)「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位:百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	5,416	162	1,663	3,914
賞与引当金	11	-	11	-
役員退職慰労引当金	506	30	5	532

(2)【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3)【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	2月末日
1単元の株式数	当社は単元株制度を採用しておりません。
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 無料 無料
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、官報に掲載して行う。
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、以下の書類を提出しております。

- (イ) 臨時報告書（金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4の規定に基づく臨時報告書）2023年4月28日福岡財務支局長に提出
会計監査人の異動を2023年5月26日開催予定の第29期定時株主総会に付議することに係る報告書であります。
- (ロ) 臨時報告書（金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第1項及び同条第2項第2号の2の規定に基づく臨時報告書）2023年5月23日福岡財務支局長に提出
当社の使用人に対し、株式会社JTC第4回新株予約権を発行することを決議したことに係る臨時報告書であります。
- (ハ) 有価証券報告書及びその添付書類
事業年度（第29期）（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）2023年5月26日福岡財務支局長に提出
- (ニ) 訂正臨時報告書（金融商品取引法第24条の5第5項において準用する同法第7条第1項の規定に基づく訂正臨時報告書）2023年6月29日関東財務局長に提出
新株予約権の払込期日変更を決議したことに係る訂正臨時報告書であります。
- (ホ) 半期報告書
（第30期中）（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）2023年11月30日関東財務局長に提出
- (ヘ) 臨時報告書（金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第1項及び同条第2項第2号の2の規定に基づく臨時報告書）2024年4月8日関東財務局長に提出
当社の使用人に対し、株式会社JTC第5回新株予約権を発行することを決議したことに係る臨時報告書であります。
- (ト) 訂正臨時報告書（金融商品取引法第24条の5第5項に基づく訂正臨時報告書）2024年4月24日関東財務局長に提出
2024年4月8日に提出した新株予約権の発行に関する臨時報告書の記載事項のうち「発行価格(払込金額)」「発行価額の総額」及び「新株予約権の行使に際して払い込むべき金額」が確定したことに係る訂正臨時報告書であります。
- (チ) 臨時報告書（金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第1項及び同条第2項第2号の2の規定に基づく臨時報告書）2024年5月10日関東財務局長に提出
当社の取締役に対し、株式会社JTC第6回新株予約権を発行することを決議したことに係る臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2024年5月28日

株式会社 J T C

取締役会 御中

如水監査法人

福岡県福岡市

指定社員
業務執行社員

公認会計士 児玉 邦康

指定社員
業務執行社員

公認会計士 松尾 拓也

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社 J T C の2023年3月1日から2024年2月29日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社 J T C 及び連結子会社の2024年2月29日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

強調事項

- 注記事項（重要な後発事象）2．子会社株式の全株式譲渡に記載されているとおり、会社は、2024年4月19日開催の取締役会において、連結子会社である株式会社ケイボックスが保有する連結子会社である株式会社ケイティーシートックスフリーの全株式を譲渡することを決議し、2024年4月24日に株式譲渡が完了している。
- 注記事項（重要な後発事象）4．第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型予約権付社債の権利行使による増資に記載されているとおり、2024年4月30日に第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型新株予約権付社債の行使が全額行われており、当該事象により、会社は、翌連結会計年度において、税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額383百万円の増加により繰延税金資産を同額取り崩す可能性がある。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

商品の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>株式会社JTCグループの事業は、海外からの旅行者に対して、食品・化粧品・生活用品等のお土産品を販売する店舗を展開する小売業を主たる事業としている。</p> <p>会社の当連結会計年度の連結貸借対照表において、商品4,423百万円が計上されており、総資産の22.8%を占めている。また、会社の連結貸借対照表の商品4,423百万円は、簿価切下げ額1,087百万円を控除した残額が計上されている。</p> <p>注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）3．会計方針に関する事項（1）重要な資産の評価基準及び評価方法に記載のとおり、会社は、商品について、総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用している。</p> <p>また、注記事項（重要な会計上の見積り）（棚卸資産の評価）に記載のとおり、会社は、棚卸資産の評価に関する会計基準等に従い、商品の評価にあたり正味売却価額が取得原価よりも下落している場合には簿価を切下げ、当該正味売却価額をもって連結貸借対照表価額としている。なお、一定期間を超えて保有している商品は、将来の販売見込等を反映して一定の基準により定期的に簿価の切下げを実施している。</p> <p>会社は、海外からの旅行者に向けた商品展開を行っており、海外消費者の需要の変化、会社が出店している店舗地域の天変地異等に伴い、商品在庫の長期滞留化や販売可能価格の低下を生じさせるリスクがある。</p> <p>また、一定の保有期間に応じた、将来の販売見込等の設定は、見積りの不確実性を伴うものであり、経営者による主観的な判断を必要とするものである。</p> <p>以上から、当監査法人は、商品の評価の妥当性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、「監査上の主要な検討事項」に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、商品の評価の妥当性を検討するため、主に以下の監査手続を実施した。</p> <p>(1) 内部統制の評価 商品の評価に関連するITシステムの全般統制及び業務処理統制の整備状況及び運用状況の有効性を評価した。</p> <p>(2) 商品の評価の妥当性の検証 当連結会計年度末における商品の正味売却価額が将来の販売見込み等を反映した合理的な価額であるかを検証するため、主に以下の手続を実施した。 ・各商品群に対し収益性の低下を適切に反映させる各評価方法の妥当性・継続性を検討した。 ・低価法適用前の期末在庫金額が、期末の総平均法によっていることを確かめた。 ・商品の期末評価額について、直近の販売実績価格、期末日の販売単価マスターまたは期末日以後に販売価格と比較検討し、評価額の妥当性を検討した。 ・過年度における正味売却価額の見積りとその後の販売実績価額とを比較し、その差異原因について検討することで、経営者による見積りの精度を評価した。 ・商品の評価一覧データを入手し、年齢調べの正確性及び網羅性、商品カテゴリーによる評価の妥当性を検討した。 ・見積りの結果としての簿価切下げ後の評価額の集計の正確性について再計算を実施した。</p>

その他の事項

会社の2023年2月28日をもって終了した前連結会計年度に係る連結財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該連結財務諸表に対して2023年5月26日付けで無限定適正意見を表明している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2024年5月28日

株式会社 J T C

取締役会 御中

如水監査法人

福岡県福岡市

指定社員 公認会計士 児玉 邦康
業務執行社員

指定社員 公認会計士 松尾 拓也
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社 J T C の2023年3月1日から2024年2月29日までの第30期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社 J T C の2024年2月29日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

強調事項

注記事項(重要な後発事象)「4. 第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型予約権付社債の権利行使による増資」に記載されているとおり、2024年4月30日に第2回無記名式利権付無保証私募転換社債型予約権付社債の行使が全額行われており、当該事象により、会社は、翌事業年度において、税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額383百万円の増加により繰延税金資産を同額取り崩す可能性がある。当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	商品の評価
会社の当事業年度の貸借対照表において、商品4,423百万円が計上されており、総資産の23.3%を占めている。また、会社の貸借対照表の商品4,423百万円は、簿価切下げ額1,087百万円を控除した残額が計上されている。	監査上の対応は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている内容と同一内容であるため、記載を省略している。
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている内容と同一内容であるため、記載を省略している。	

その他の事項

会社の2023年2月28日をもって終了した前事業年度に係る財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該財務諸表に対して2023年5月26日付けで無限定適正意見を表明している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 X B R L データは監査の対象には含まれていません。